

都市近郊山麓部の景観保全に向けた 山麓部との新たな関わり方に関する研究



緑地保全・創成学講座
緑地計画学グループ
小嶋 英里

◇研究の背景

・都市近郊の山麓部について

【過去】薪炭林・農用林、伝統文化、情景

【現在】生活との関わりを喪失し、荒廃

◇研究の目的

・山麓部との新たな関わりを生み出し再生を図ろうとしている箕面市の取り組みを対象に、保全活動の活性化の仕組みを明らかにするとともに、山麓部の活用ポテンシャルを明らかにする。

◇研究の構成

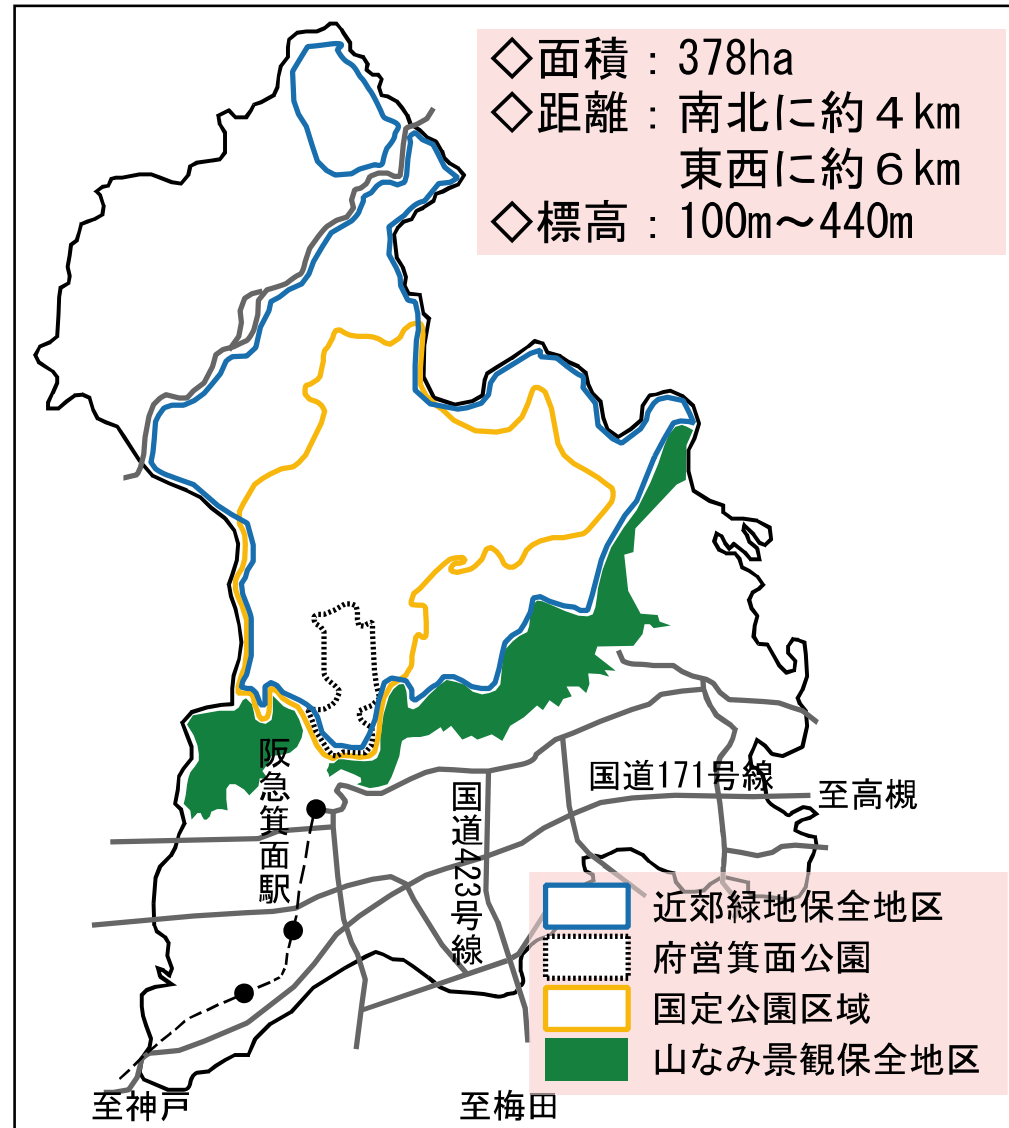
第1章 研究の目的及び方法

第2章 箕面山麓保全のソフト的仕組みとそれによって生み出される保全活動

第3章 山麓部の活用に関わるポテンシャル評価

第4章 山麓部の活用ポテンシャルと山麓保全活動活性化の仕組み

◇調査対象区



第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成 14 年 3 月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成9年4月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年9月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成14年3月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成15年7月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成16年1月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成9年4月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年9月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を 求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行 うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保 全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成14年3月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成15年7月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成16年1月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月 「山なみ景観保全地区」指定の告示	
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成 14 年 3 月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月 第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催	
平成 14 年 3 月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成14年3月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	
平成 9 年 4 月	箕面市都市
平成 10 年 9 月	景観審議会 「土地所有者 努力をするこ 的な山麓保 開をすること
平成 10 年 10 月	「山なみ景観
平成 11 年 10 月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成 14 年 3 月 「山麓保全アクションプログラム」の策定	
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

山麓保全アクションプログラムとは

◇基本理念 山林所有者・市民・行政の三者が協働で
保全に取り組むこと

◇目 標 { ・山麓部の機能発揮
・人・資源・お金の循環

◇具体化に向けた取り組み
{ ・プラットフォーム
・資金循環システム

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成 14 年 3 月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成15年7月	「NPO法人みのお山麓保全委員会(略称:山麓委員会)発足
平成 16 年 1 月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

第2章 山麓保全

箕面・山麓保全検討委員会

土地所有者

市民

行政

学識経験者

- いろいろな立場から議論を重ねる
- 広く意見を反映→会議は公開性
- 土地所有者・市民・行政が協働して山を育てる→3者協働

- 山麓保全アクションプログラムの策定
- 市民への働きかけ、人材の発掘、行動の誘発

NPO法人みのお山麓保全委員会

- プラットフォーム機能を支える
- 山麓ファンドの効果的運用

年月

平成9年4月

平成10年9月

平成10年10月

平成11年10月

平成14年3月

平成15年7月

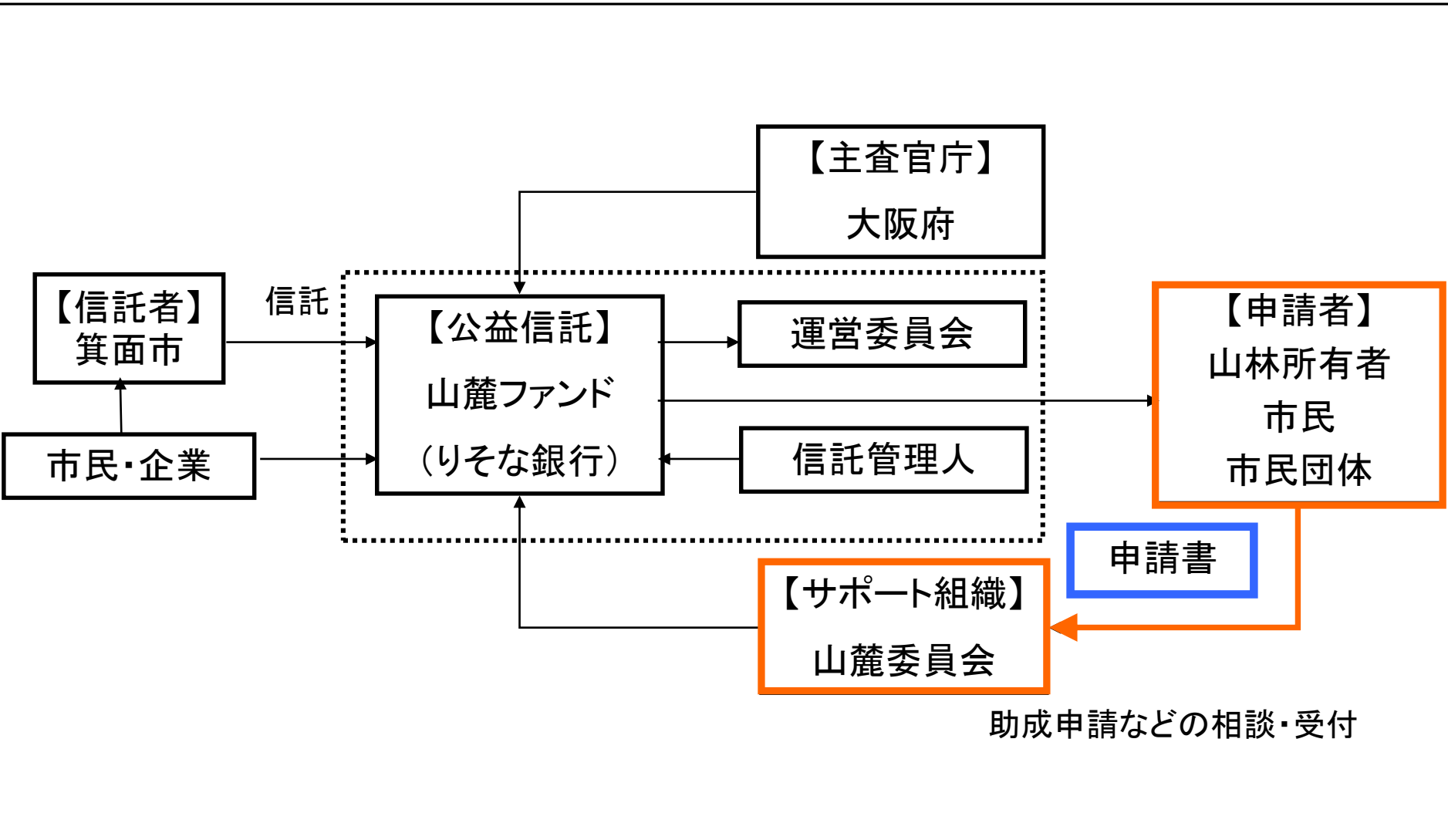
平成16年1月

第2章 山麓ファンド設立の経緯

年月	内容
平成 9 年 4 月	箕面市都市景観条例の施行
平成10年 9 月	景観審議会から市へ答申 「土地所有者や市民に対し制度の内容や必要性について理解を求める努力をすること」、「一定期間ごとの指定地区の見直しを行うこと」、「総合的な山麓保全対策の検討と市民ぐるみの山麓保全への具体的方策の展開をすること」
平成10年10月	「山なみ景観保全地区」指定の告示
平成11年10月	第1回山麓保全検討委員会(仮称)開催
平成 14 年 3 月	「山麓保全アクションプログラム」の策定
平成 15 年 7 月	「NPO法人みのお山麓保全委員会」(略称:山麓委員会)発足
平成16年1月	「公益信託みのお山麓保全ファンド」設置

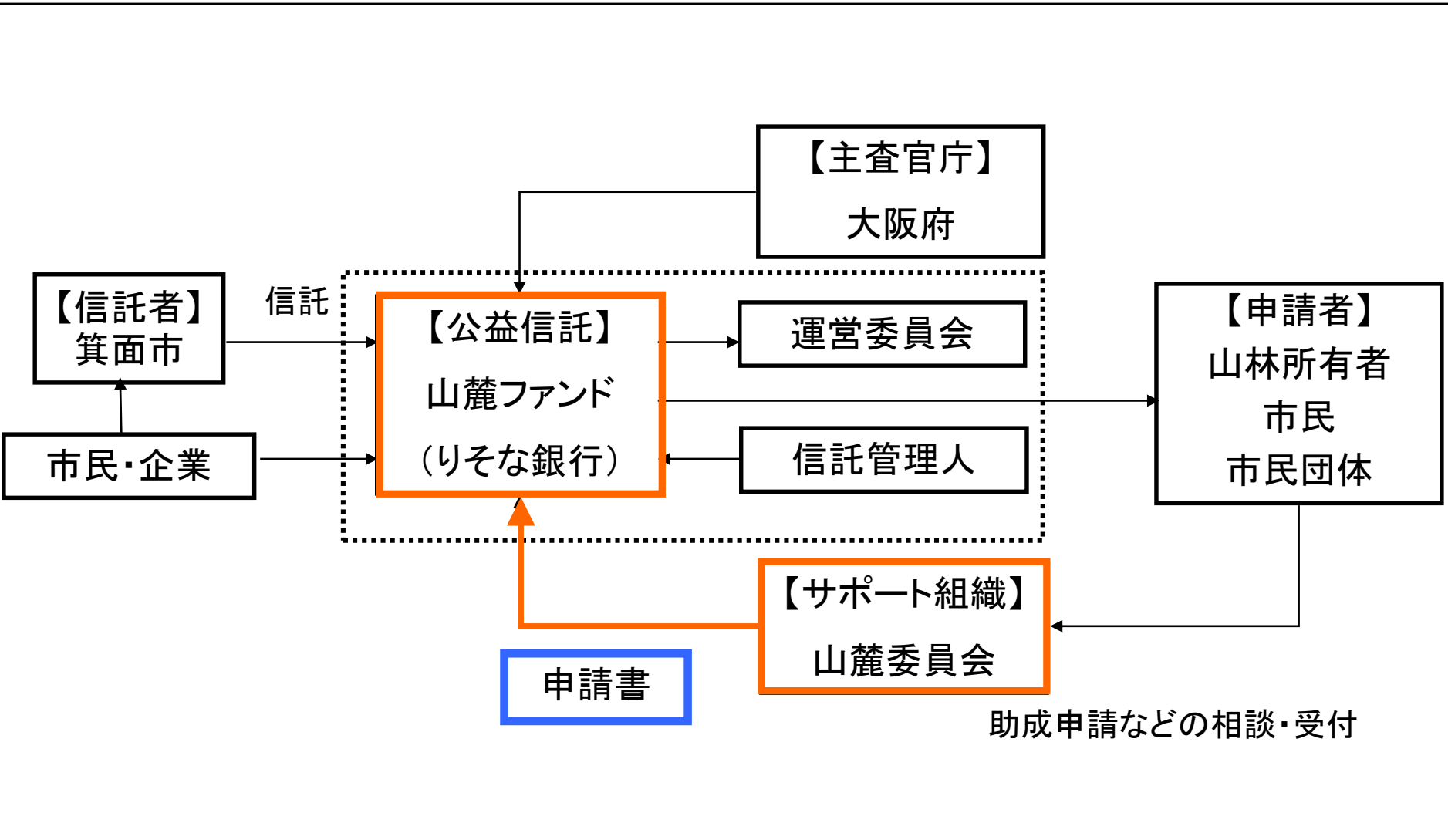
第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



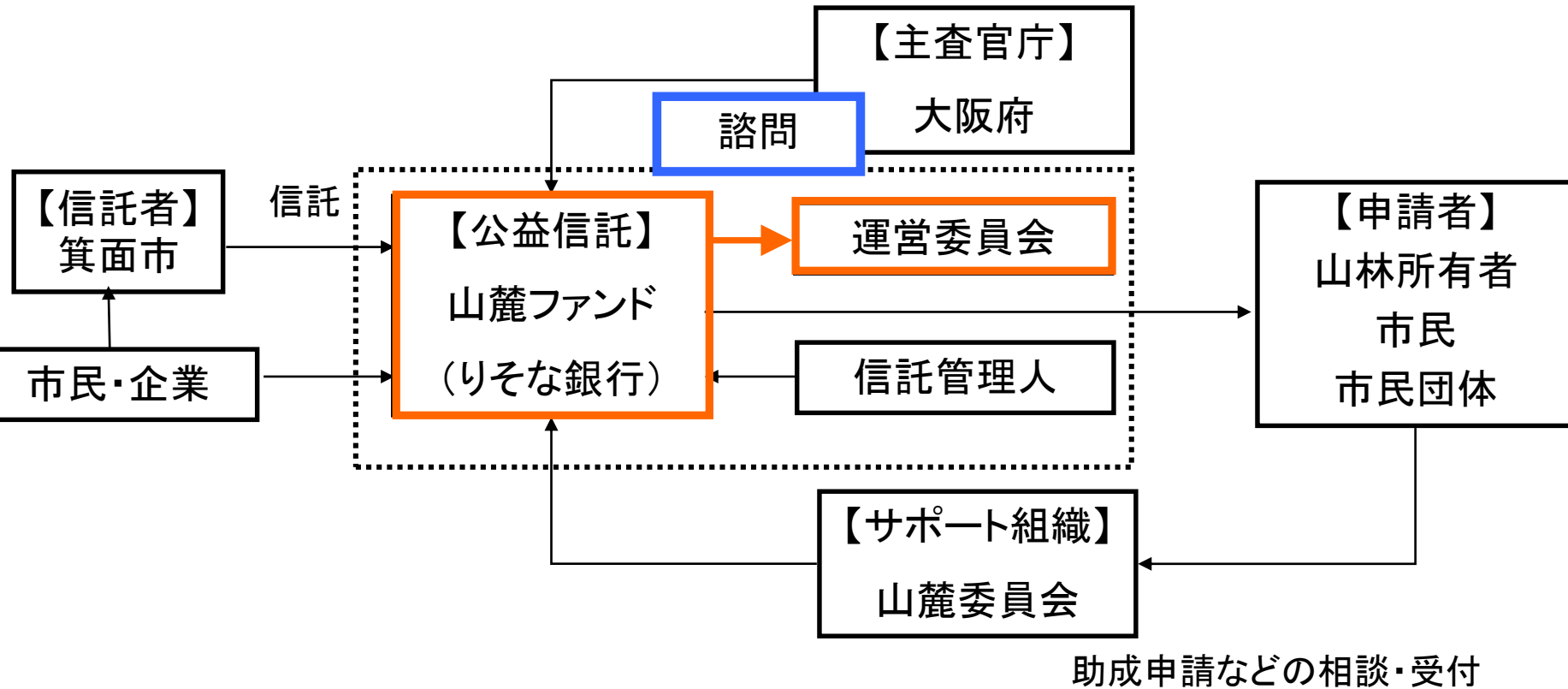
第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



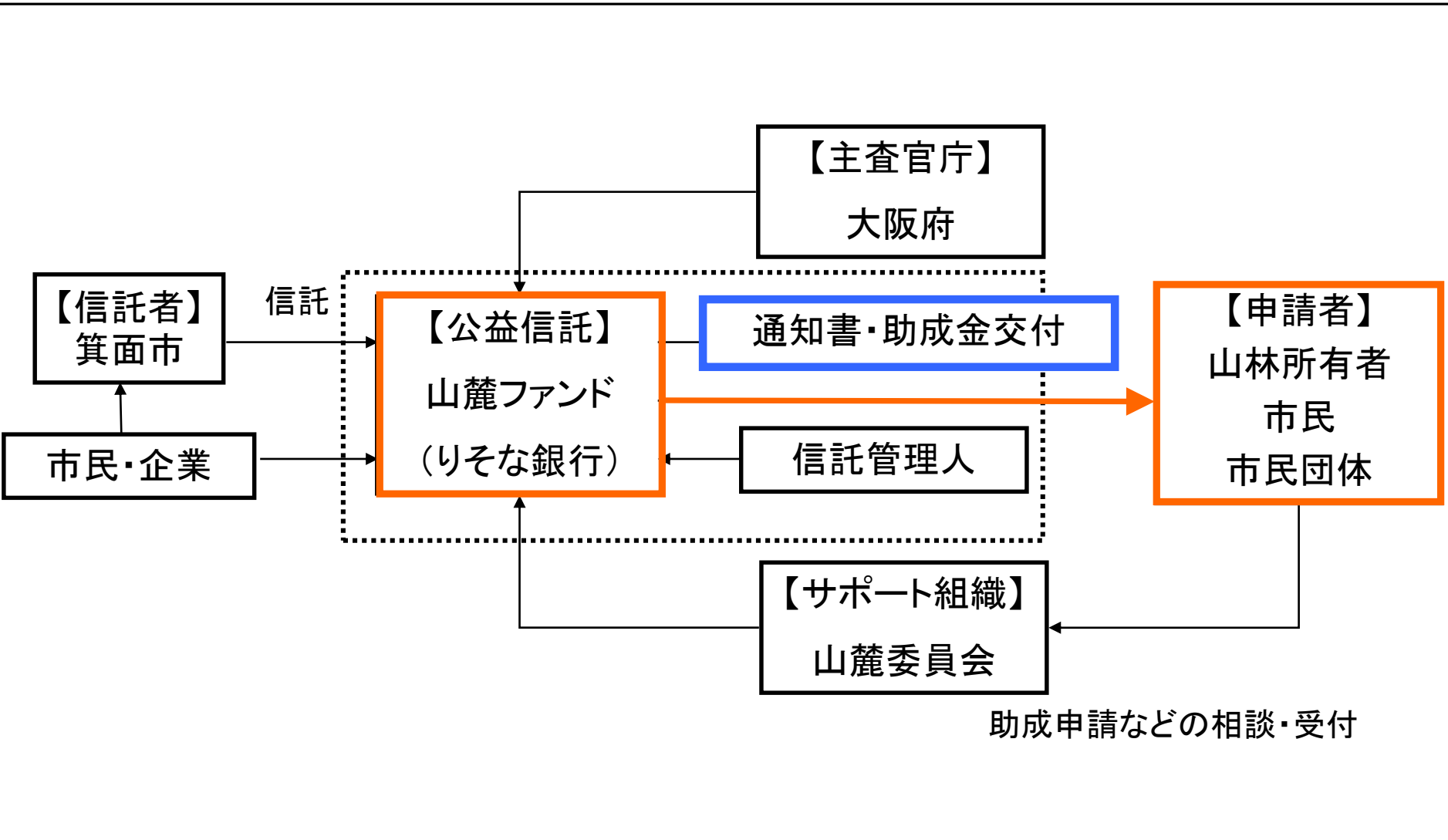
第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



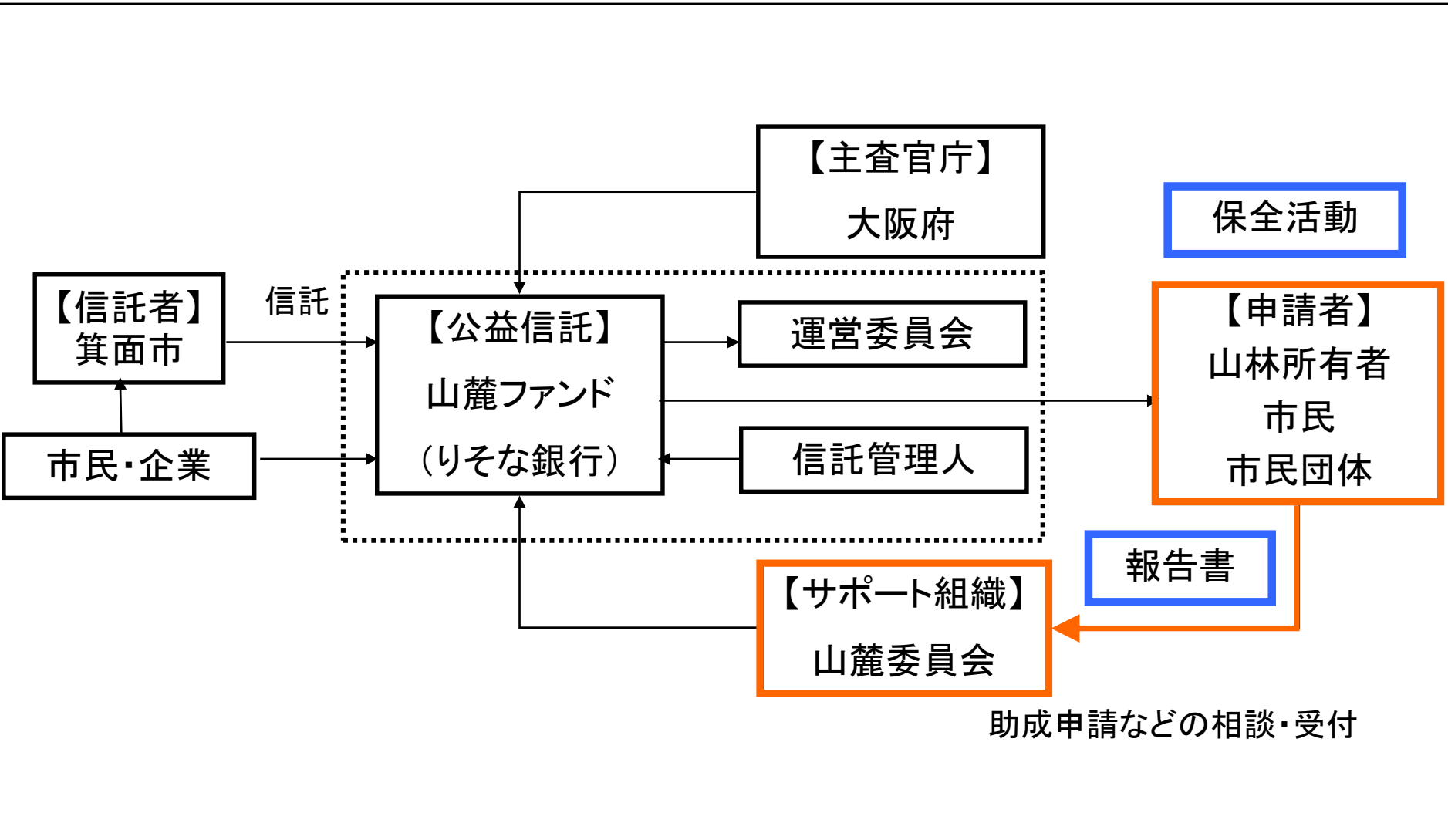
第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



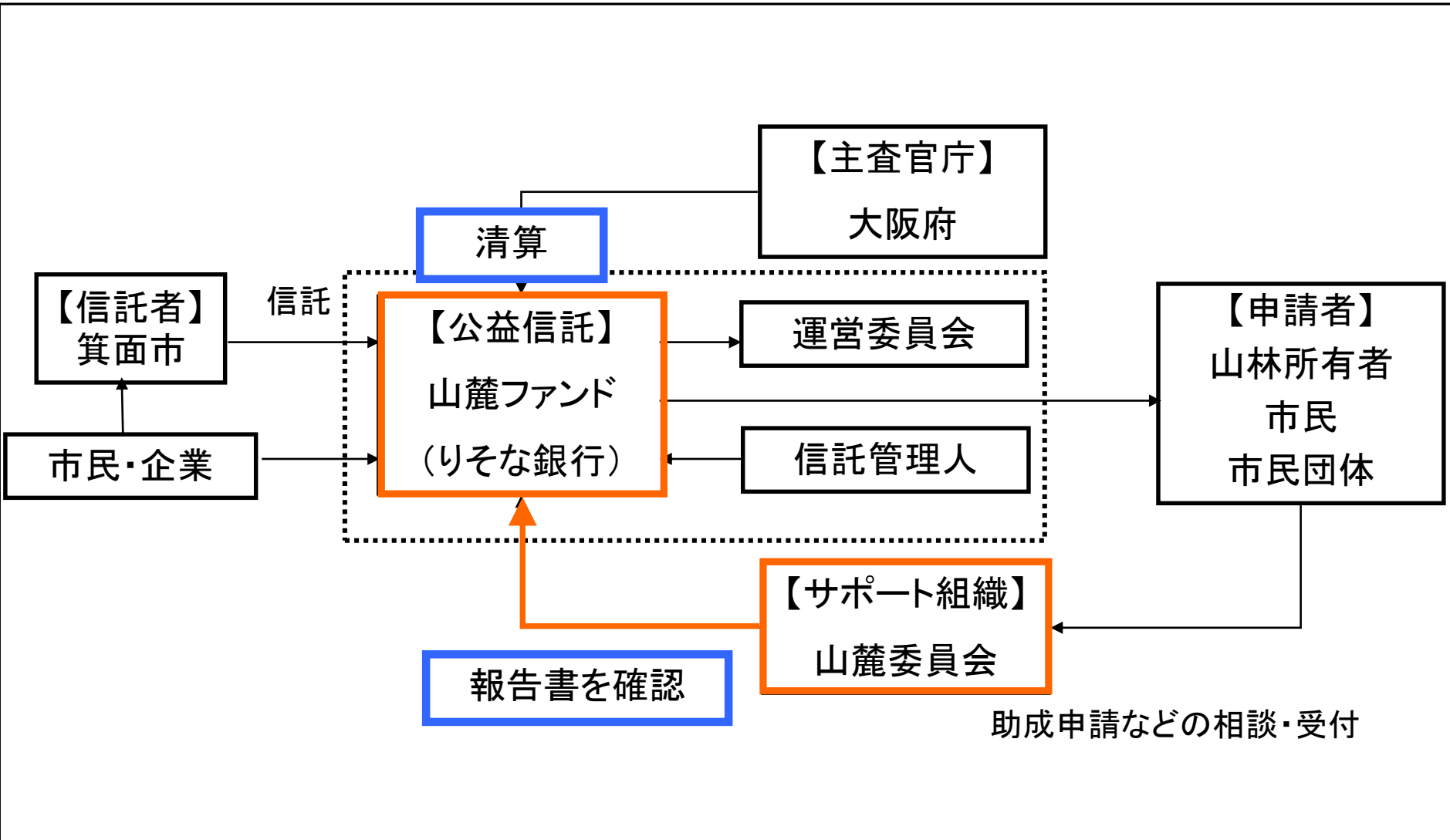
第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



第2章 公益信託みのお山麓保全ファンドの仕組み

- ・箕面市がりそな銀行に2億円を信託して始まる(受託者:りそな銀行)



第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理1

◇調査および分類整理の方法

・助成申請書類・資料を基に助成された団体と活動の内容を抽出

申請団体名	団体 番号	活動場所	活動種類													活動(作業)内容と目的
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
まんどろ火祭り実行委員会	6-1	かやの中央内、千里川 およびかやの広場							●							▶箕面の里山の伝統行事の復活、発展 ▶300年以上の歴史を有する行事
箕面だんだんクラブ	6-2	箕面市環境クリーンセ ンター、あかつき特養、 白島付近の竹林	●	○		○		○								▶里山の清掃等の里山管理 ▶山道の清掃・補修・開設 ▶沿道の枝払い
箕面の自然と遊ぶ会	6-3	箕面山麓部(通称二十 二曲がり入り口付近)	●													▶民間地での間伐、除伐、枝打ち林内整備、自 然観察会

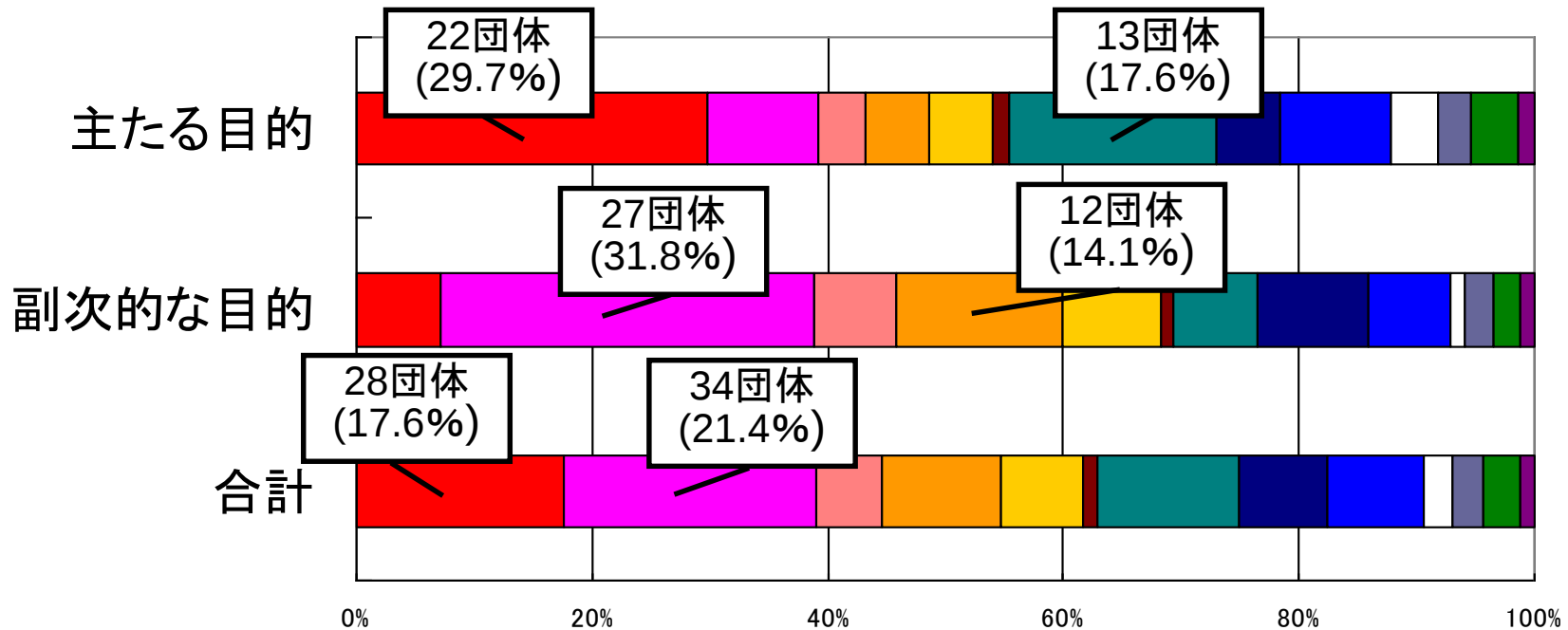
◇“●”→主たる目的 “○”→副次的な目的

◇活動の種類内訳

- ①里山管理
- ②山の幸づくり
- ③里山とのふれあい
- ④山道の手入れ
- ⑤里山の自然保護
- ⑥山林の防災・保全・利用モラルの向上
- ⑦里山文化の育成
- ⑧山麓保全を支える人材育成
- ⑨山麓の学習・調査・研究
- ⑩山林の管理・活用
- ⑪山麓保全に関わる団体の交流
- ⑫山麓保全のための資金確保
- ⑬その他

	団体数		
	●	○	合計
2004年度	17	9	26
2005年度	18	20	38
2006年度	20	30	50
2007年度	19	26	45
合計	74	85	159

第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理1



◇活動の種類内訳

■ 里山管理 ■ 山の幸づくり ■ 里山とのふれあい ■ 山道の手入れ ■ 里山の自然保護
■ 山林の防災・保全・利用モラルの向上 ■ 里山文化の育成 ■ 山麓保全を支える人材育成
■ 山麓の学習・調査・研究 ■ 山林の管理・活用 ■ 山麓保全に関わる団体の交流 ■ 山麓保全のための資金確保 ■ その他

第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理2

◇分類整理の方法

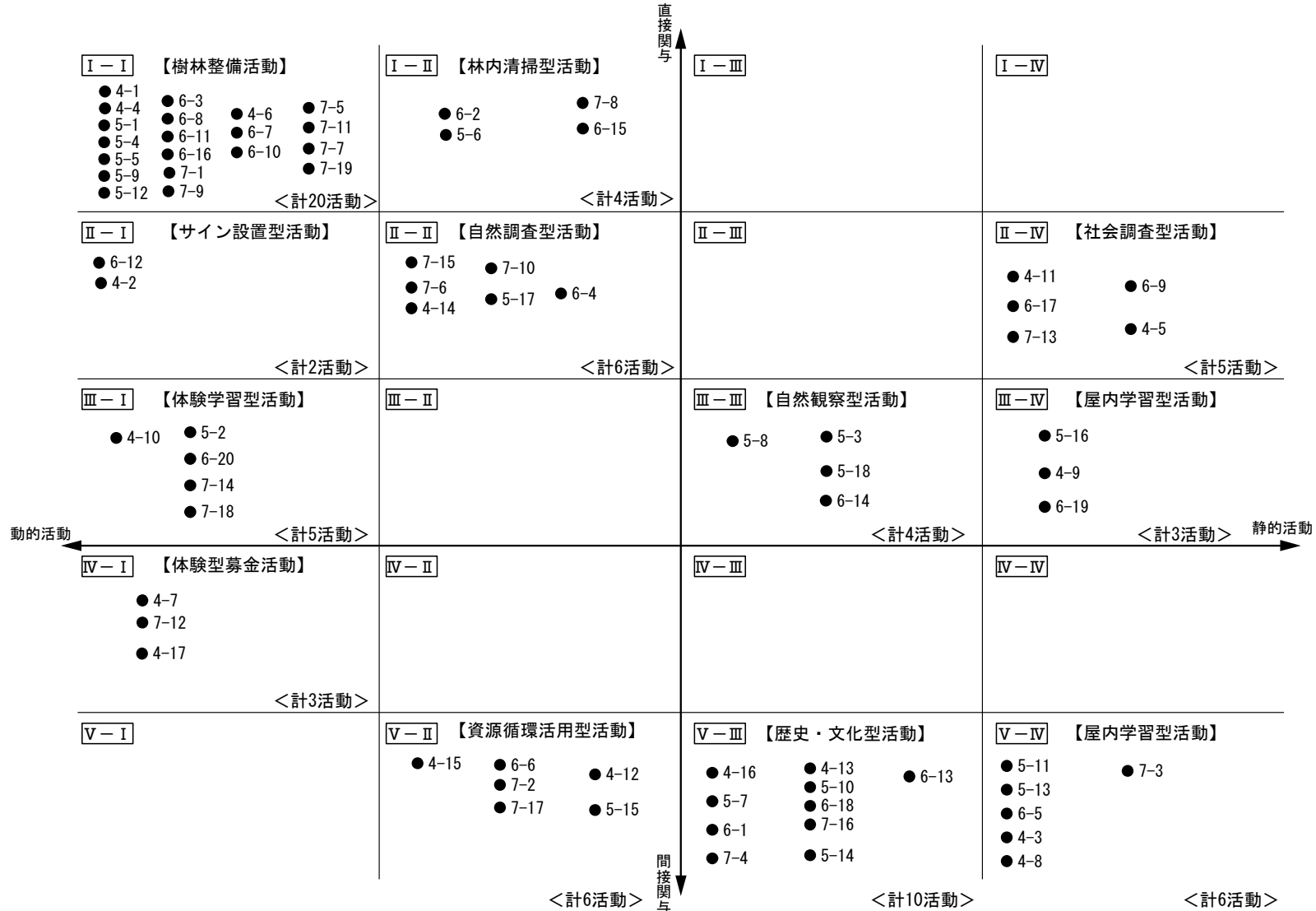


図2-8 活動分類の分布図

第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理2

◇分類整理の方法 【動的-静的】

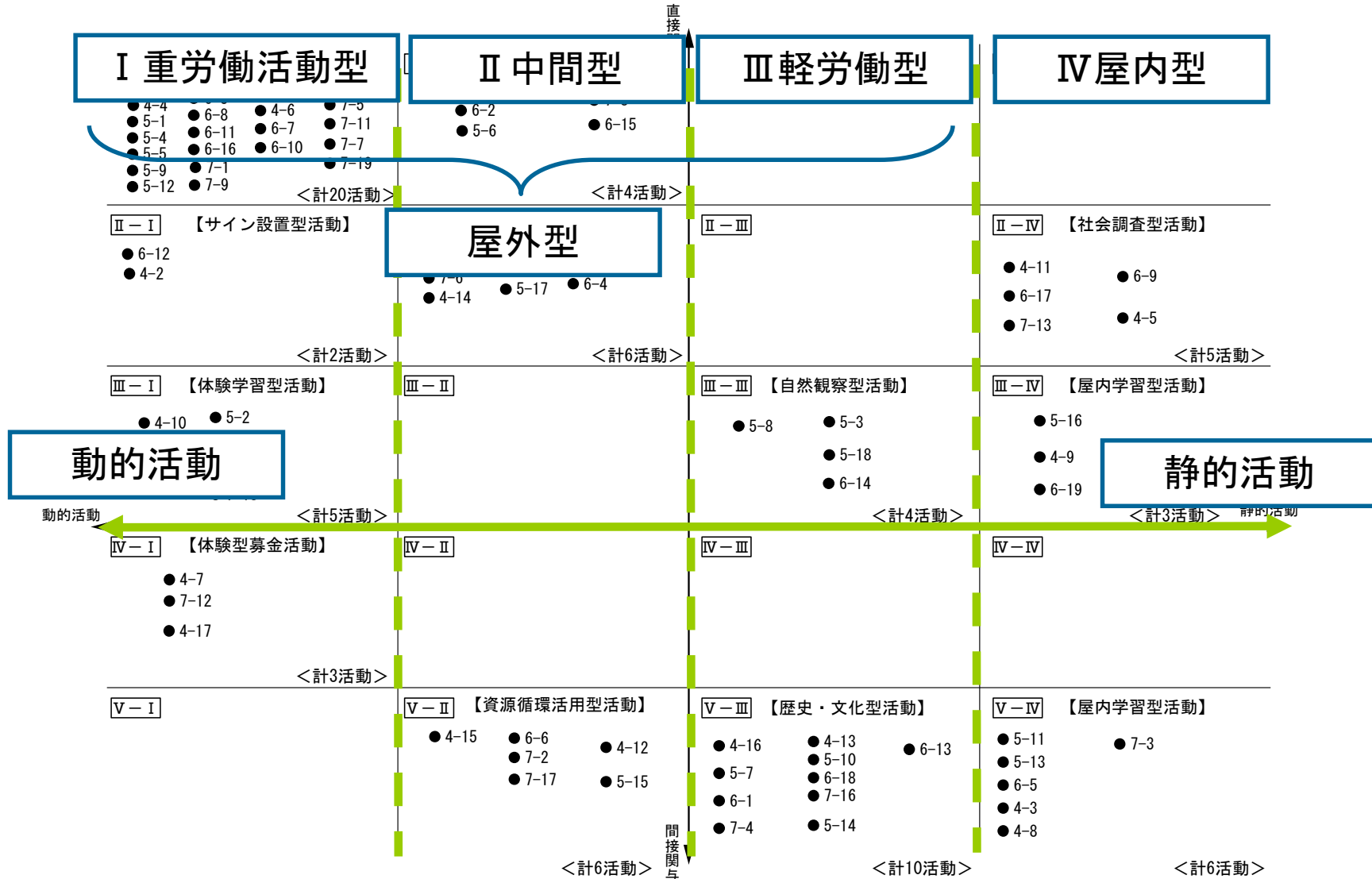


図2-8 活動分類の分布図

第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理2

◇分類整理の方法【直接—間接】

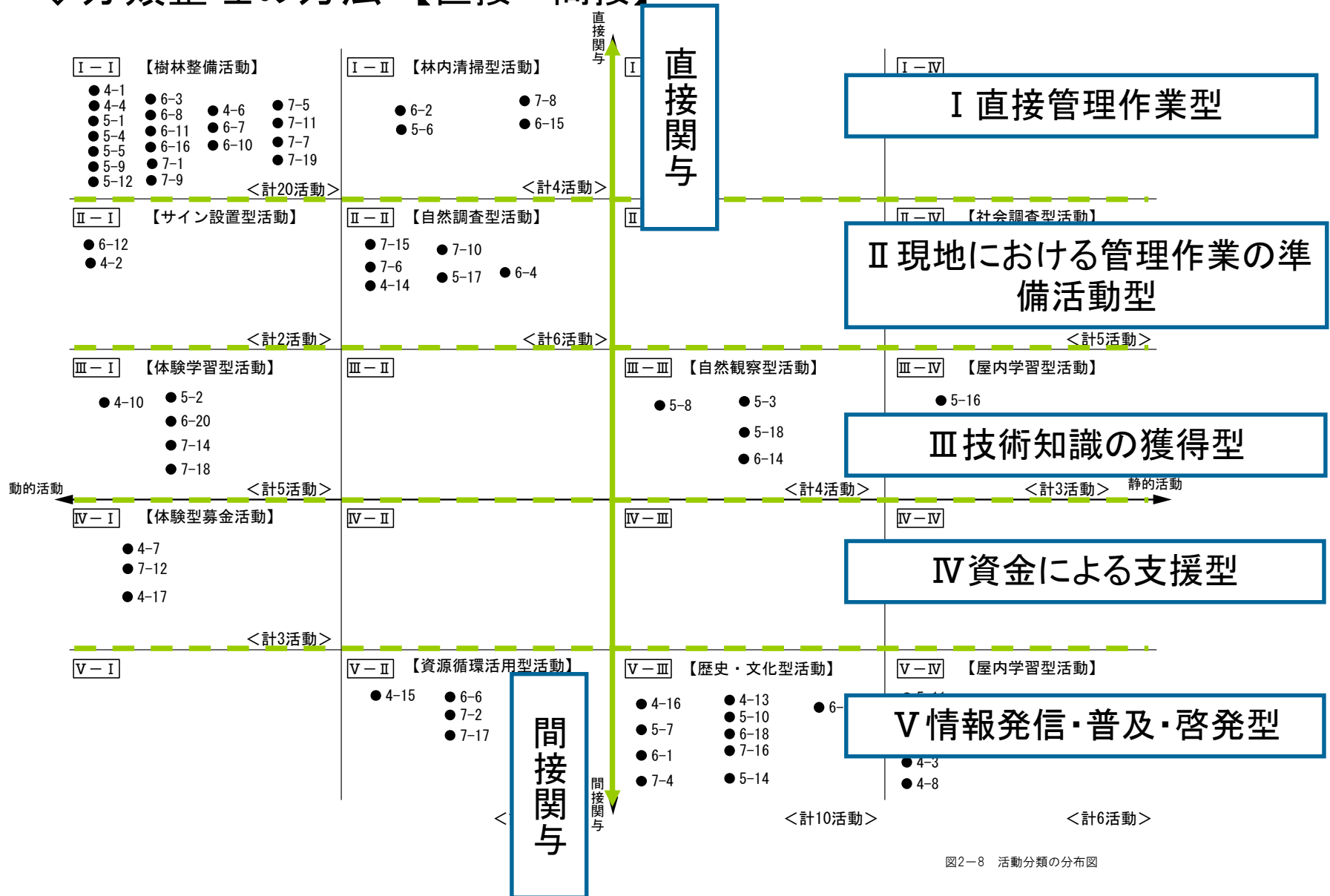
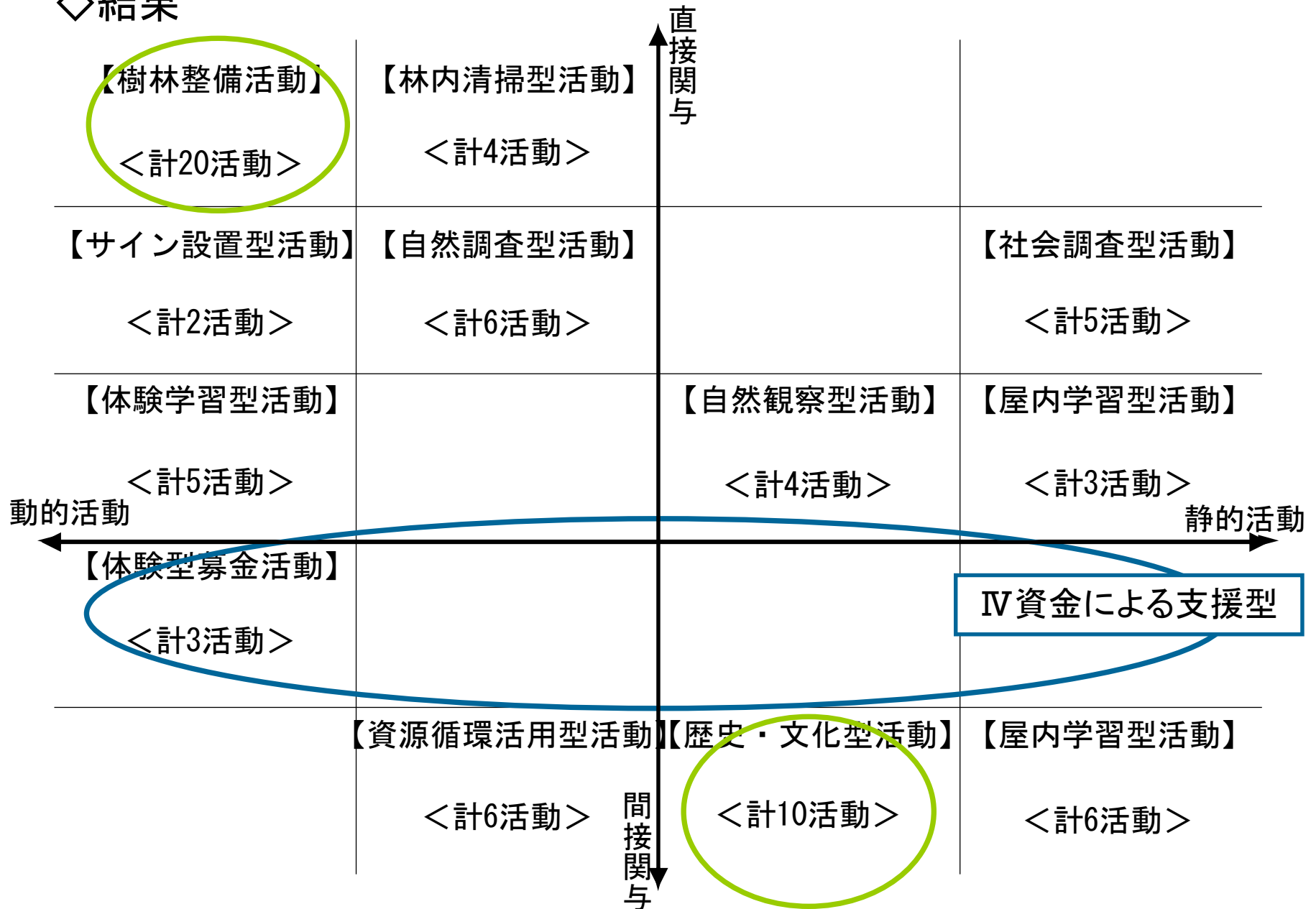


図2-8 活動分類の分布図

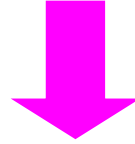
第2章 山麓との新たな関わり方 分類整理2

◇結果

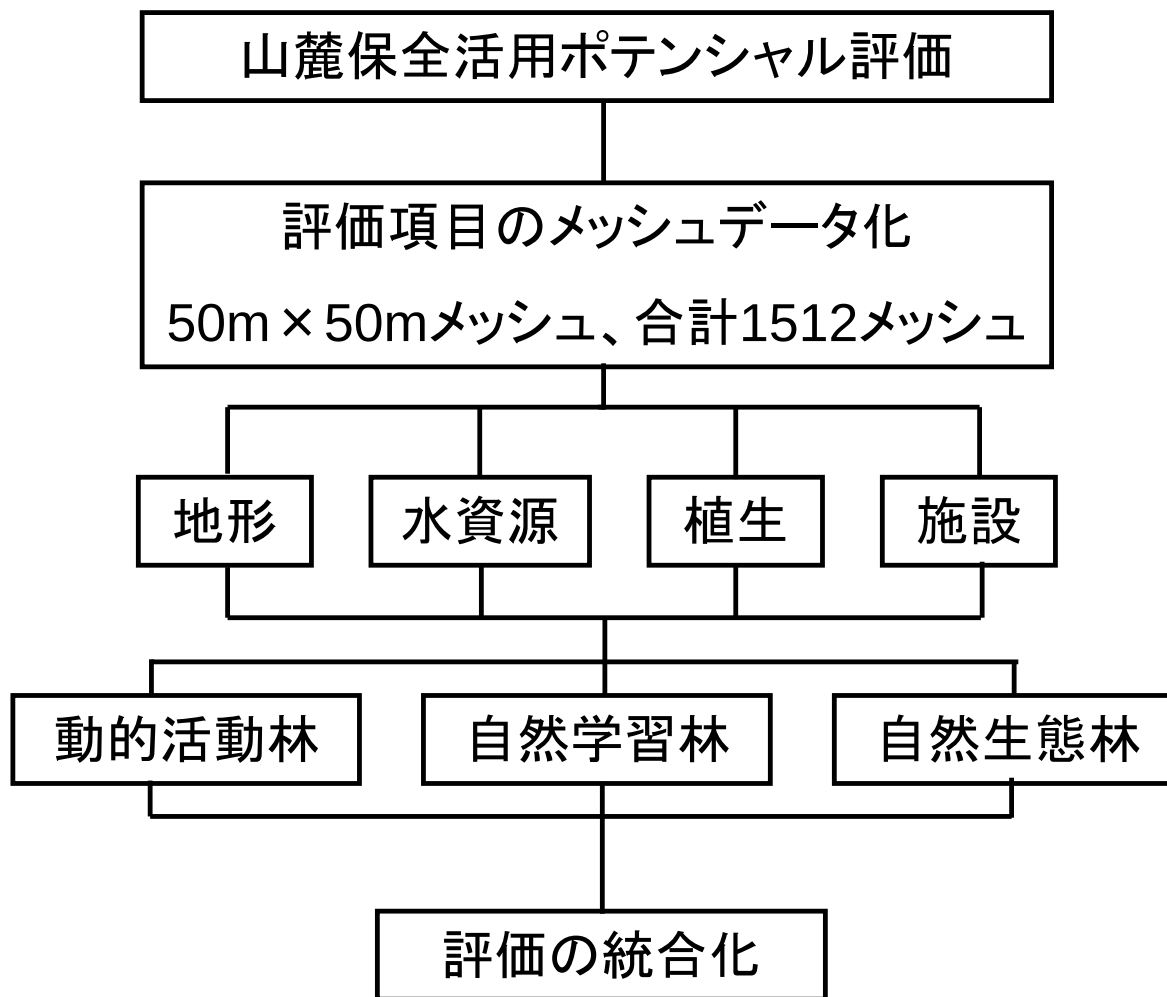


第2章 まとめ

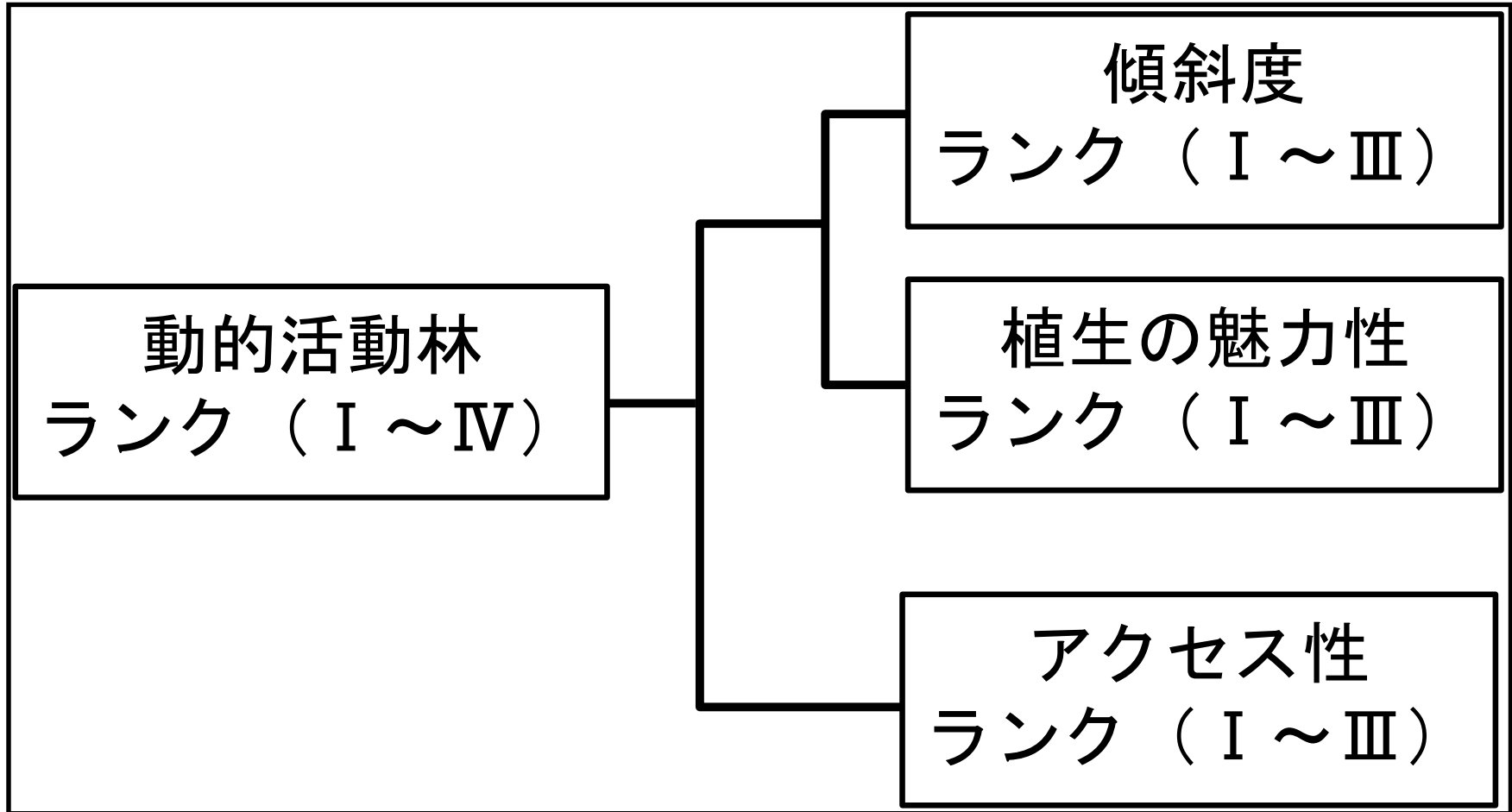
- ◇里山の管理、里山文化の育成が現在の保全管理活動の中心。
- ◇並行してシイタケ栽培など山の幸づくりが行われている。
- ◇動的活動で直接的関与の樹林整備型活動や、やや静的で間接関与の歴史文化型活動が多い。
- ◇資金獲得に寄与するなど間接的関与型の活動が少ない。



- ◇山麓保全に直接的に関与する活動が中心となっているが、多様な活動を誘発させ多くの市民を巻き込んだ市民活動に発展させるためには間接的関与型の活動を誘発させることが重要である。



第3章 動的活動林：評価システム



第3章 動的活動林：傾斜度

動的活動林
ランク（Ⅰ～Ⅳ）

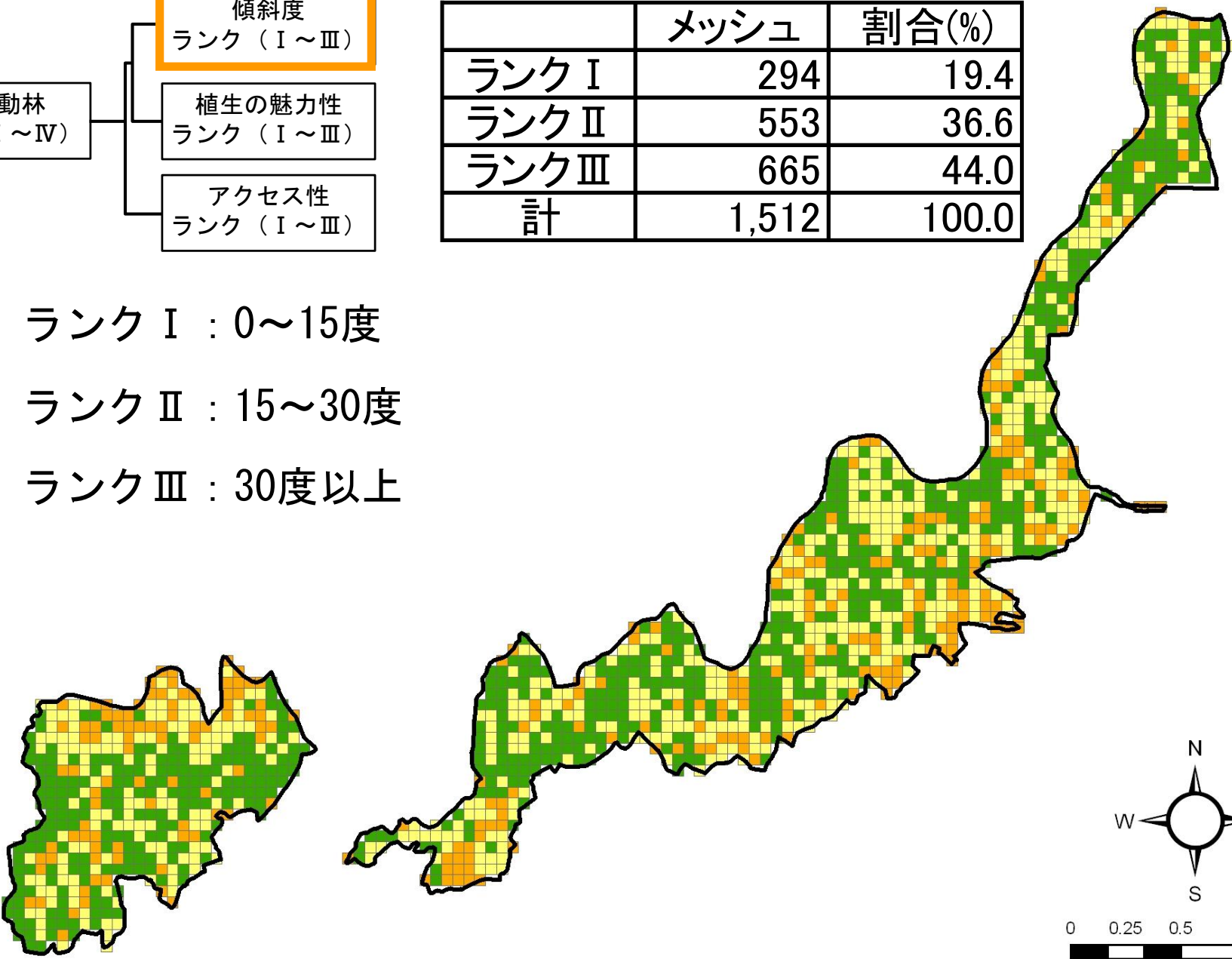
傾斜度
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

植生の魅力性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

アクセス性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	294	19.4
ランクⅡ	553	36.6
ランクⅢ	665	44.0
計	1,512	100.0

- ランクⅠ：0～15度
- ランクⅡ：15～30度
- ランクⅢ：30度以上



第3章 動的活動林：植生の魅力性

凡例

□ 対象地区

■ コジイ自然林

■ コジイ二次林, アラカシ林

■ ケヤキ林, ムクノキ林

■ コナラ林

■ アカマツ林

■ アカメガシワ林, クマノミズキ林

■ 竹林

■ スギ・ヒノキ林

■ 園芸樹木植林・苗圃

■ マント群落

■ 伐採跡地群落

■ 二次草原（半自然草原）, 耕作地雑草群落

■ 芝生, ゴルフ場人口草地

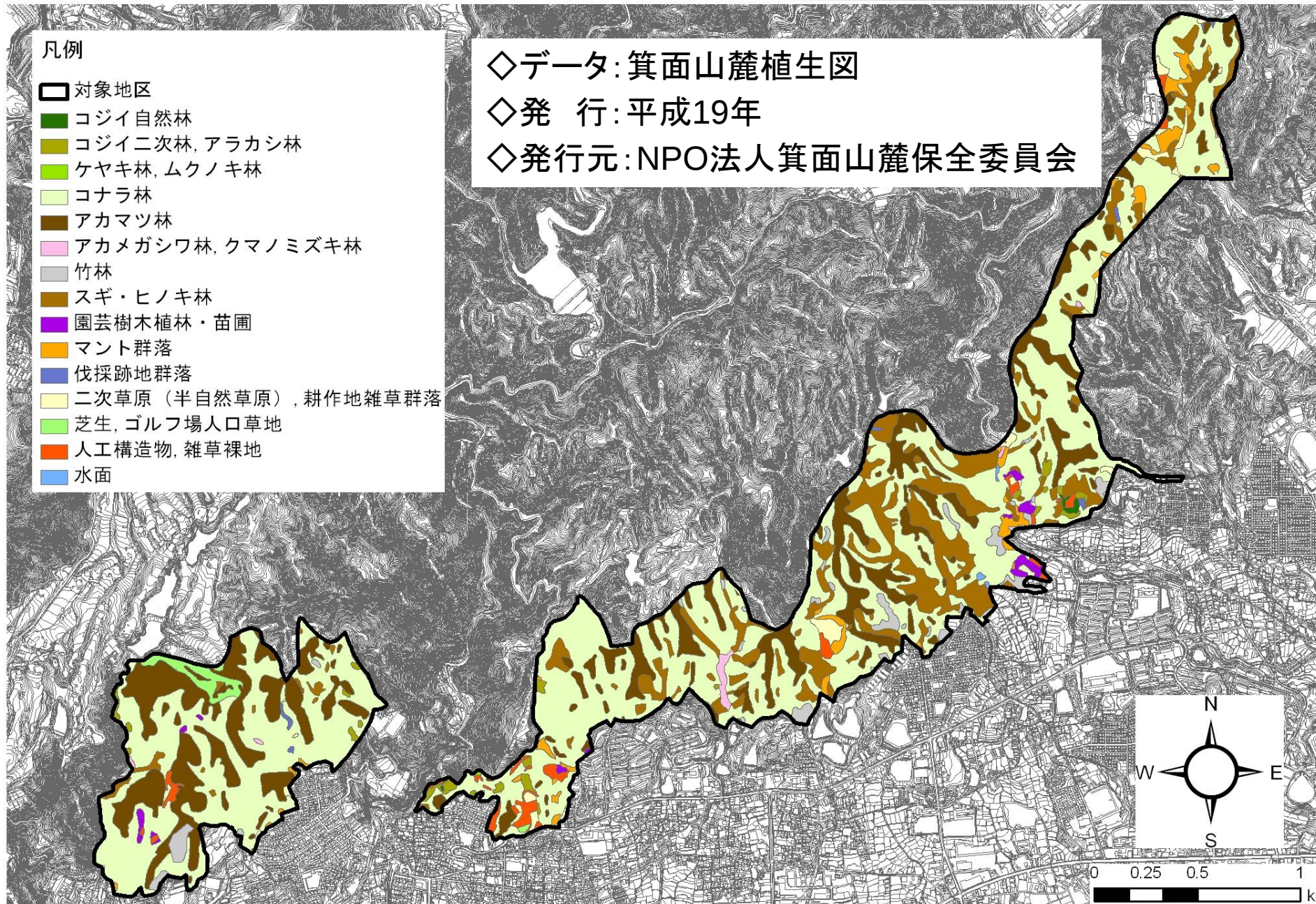
■ 人工構造物, 雑草裸地

■ 水面

◇ データ：箕面山麓植生図

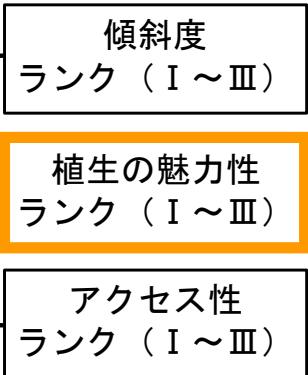
◇ 発行：平成19年

◇ 発行元：NPO法人箕面山麓保全委員会



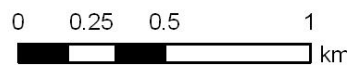
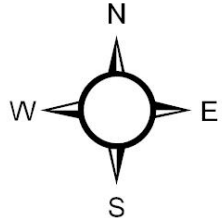
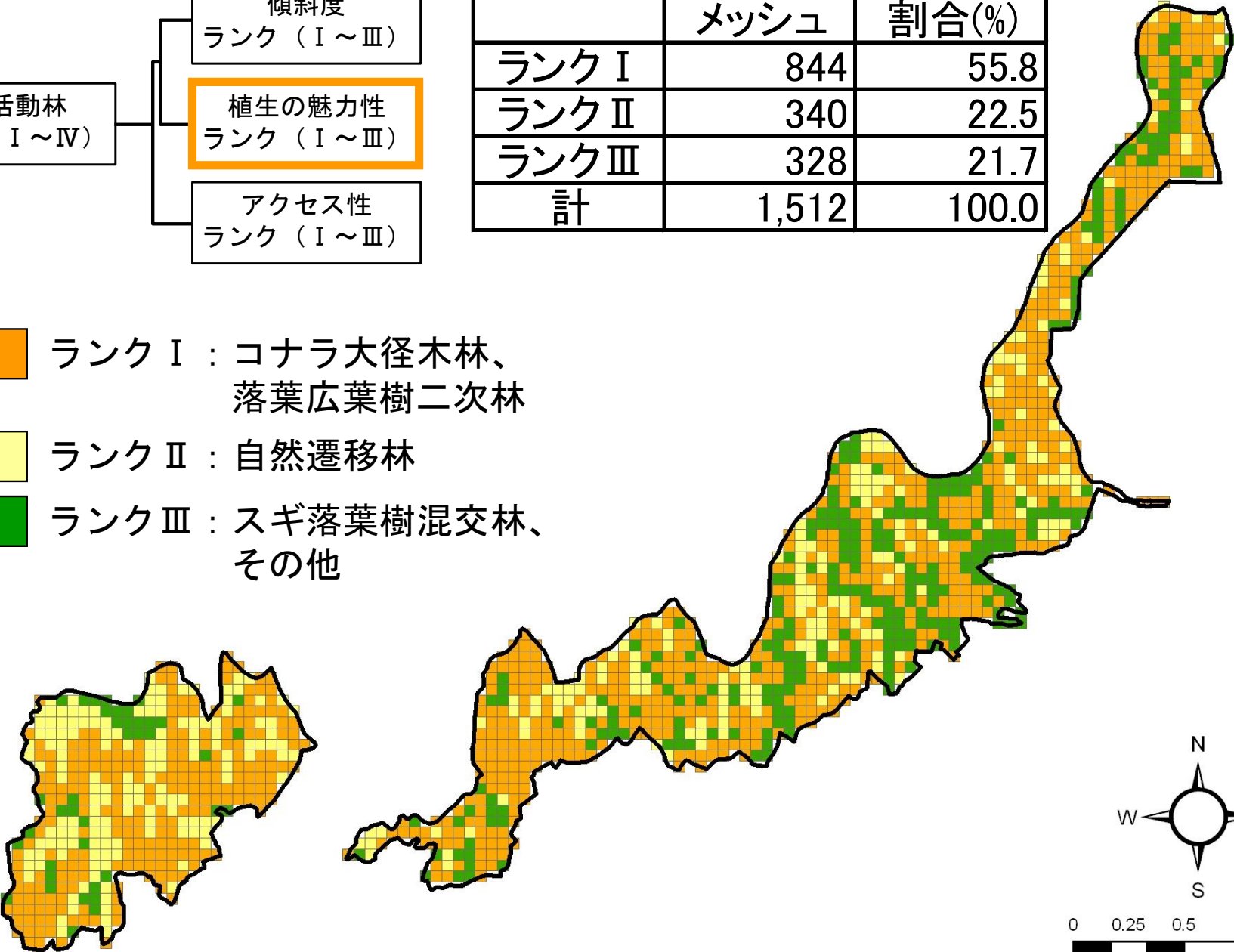
第3章 動的活動林：植生の魅力性

動的活動林
ランク（Ⅰ～Ⅳ）

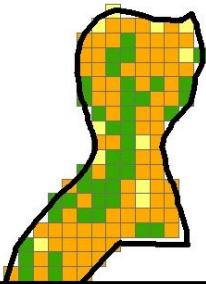
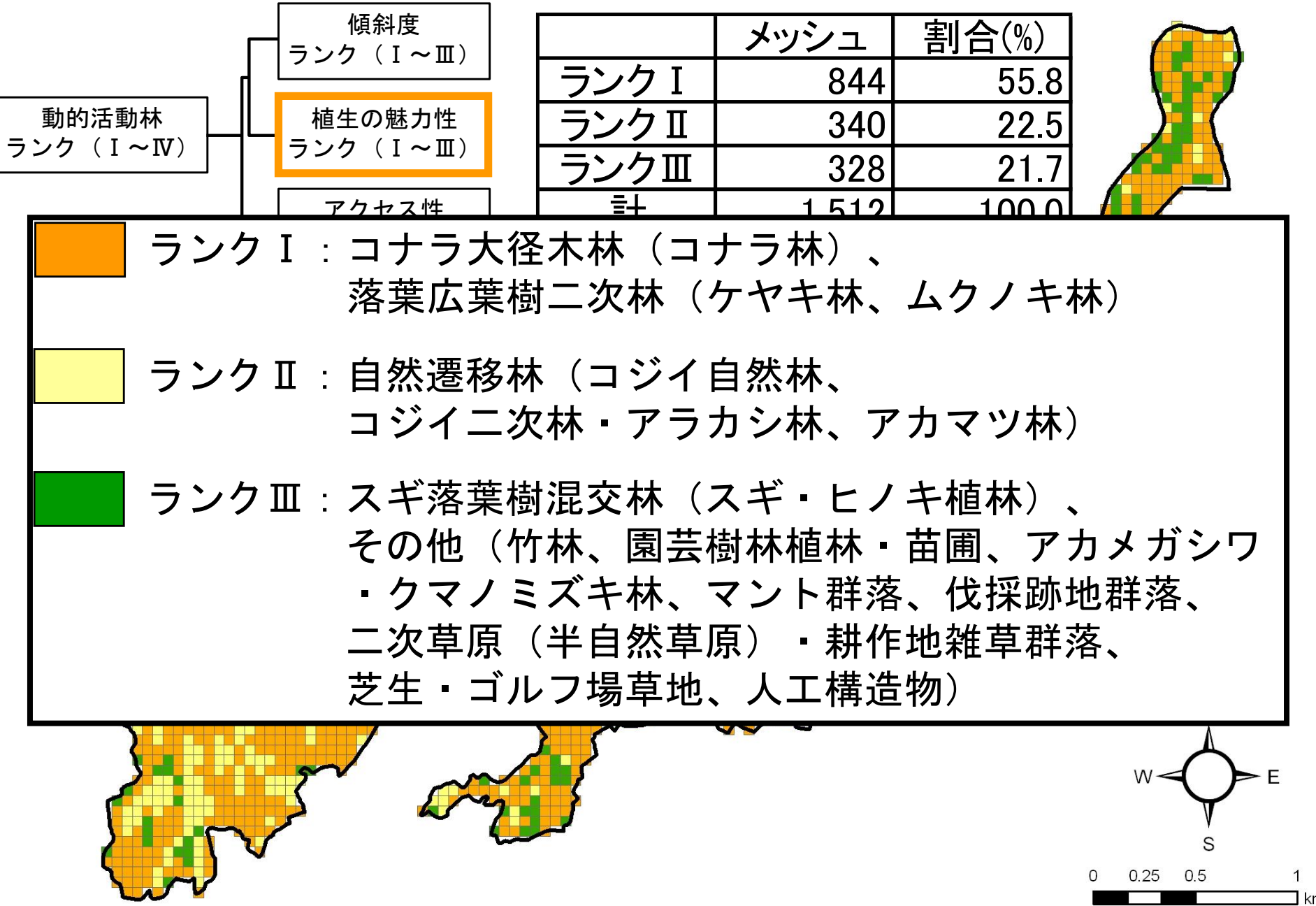


	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	844	55.8
ランクⅡ	340	22.5
ランクⅢ	328	21.7
計	1,512	100.0

- ランクⅠ：コナラ大径木林、
落葉広葉樹二次林
- ランクⅡ：自然遷移林
- ランクⅢ：スギ落葉樹混交林、
その他



第3章 動的活動林：植生の魅力性





第3章 動的活動林: 傾斜度×植生の魅力性

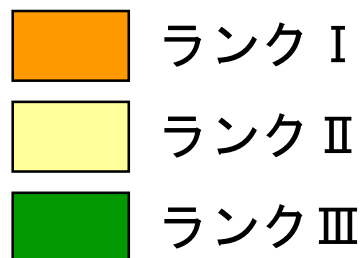
動的活動林
ランク (I ~ IV)

傾斜度
ランク (I ~ III)

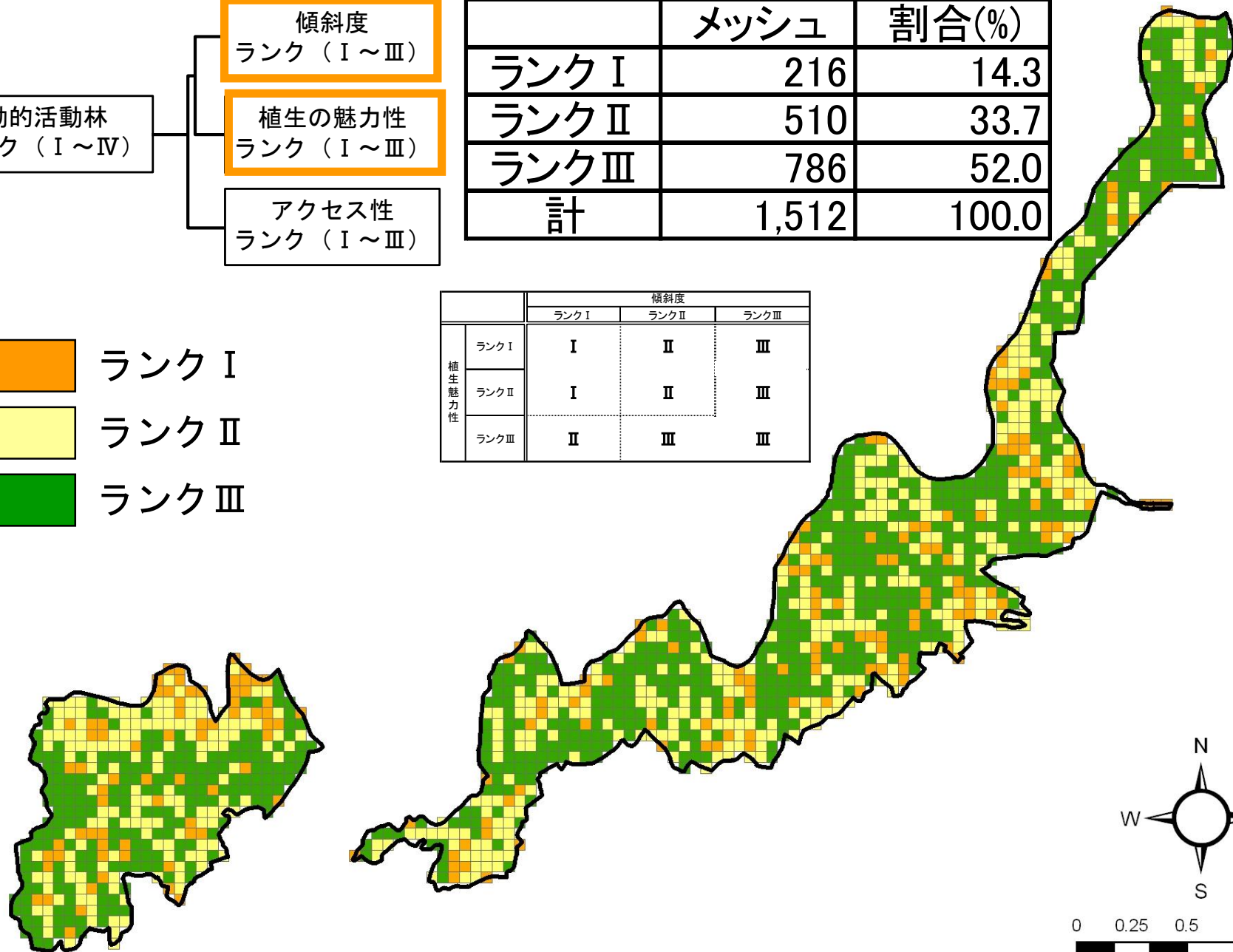
植生の魅力性
ランク (I ~ III)

アクセス性
ランク (I ~ III)

	メッシュ	割合(%)
ランク I	216	14.3
ランク II	510	33.7
ランク III	786	52.0
計	1,512	100.0



		傾斜度		
		ランク I	ランク II	ランク III
植生魅力性	ランク I	I	II	III
	ランク II	I	II	III
	ランク III	II	III	III





第3章 動的活動林: 傾斜度×植生の魅力性

第3章 山麓部の活用に関わるポテンシャル評価

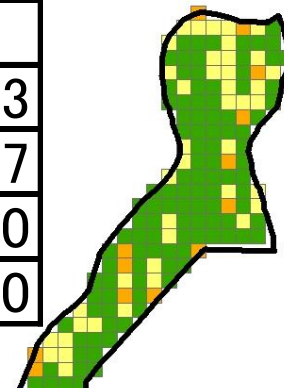
動的活動林
ランク (I~IV)

傾斜度
ランク (I~III)

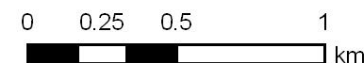
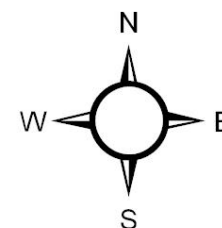
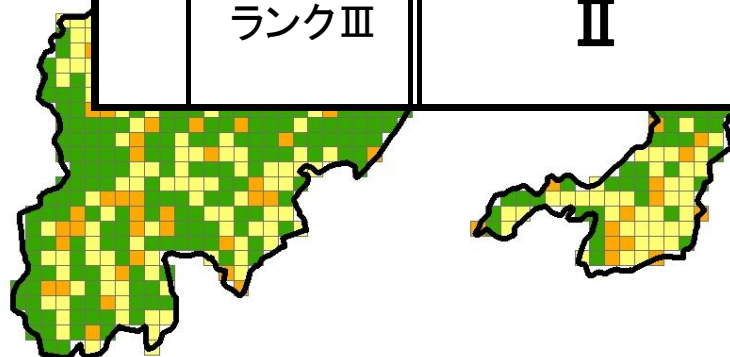
植生の魅力性
ランク (I~III)

アクセス性
ランク (I~III)

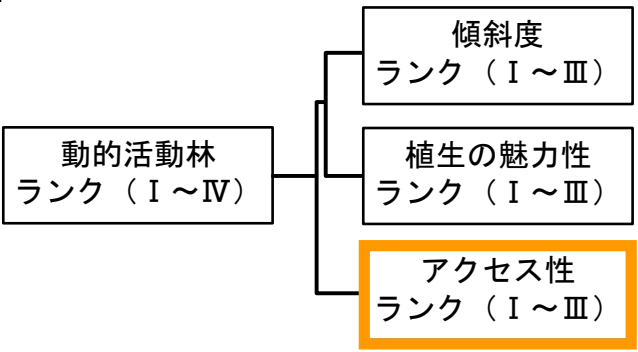
	メッシュ	割合(%)
ランク I	216	14.3
ランク II	510	33.7
ランク III	786	52.0
計	1,512	100.0



		傾斜度		
		ランク I	ランク II	ランク III
植 生 魅 力 性	ランク I	I	II	III
	ランク II	I	II	III
	ランク III	II	III	III

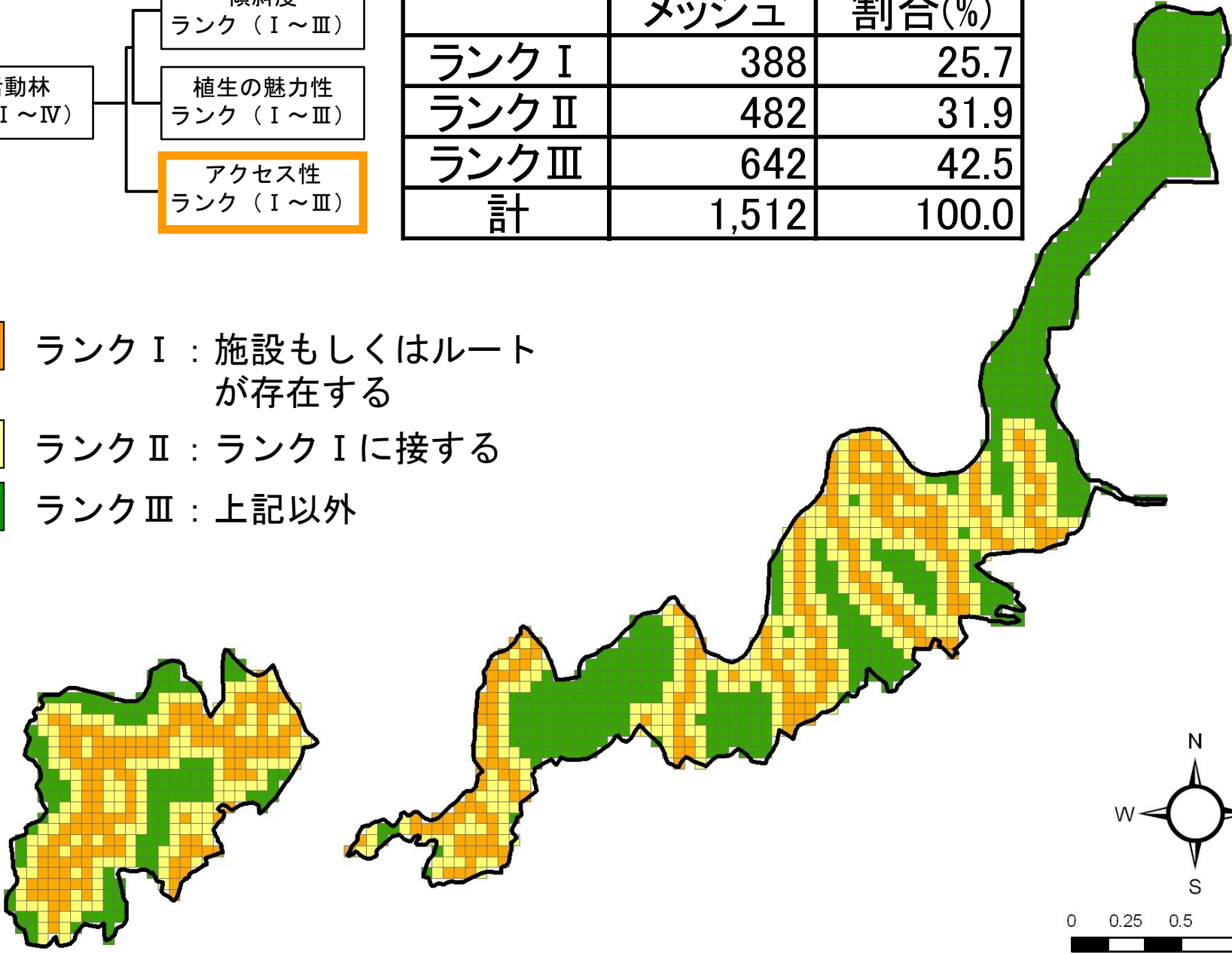


第3章 動的活動林:アクセス性



	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	388	25.7
ランクⅡ	482	31.9
ランクⅢ	642	42.5
計	1,512	100.0

- ランクⅠ：施設もしくはルートが存在する
- ランクⅡ：ランクⅠに接する
- ランクⅢ：上記以外



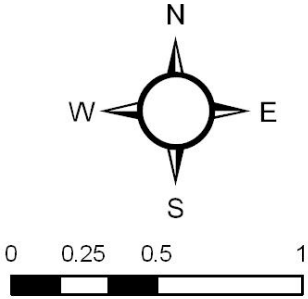
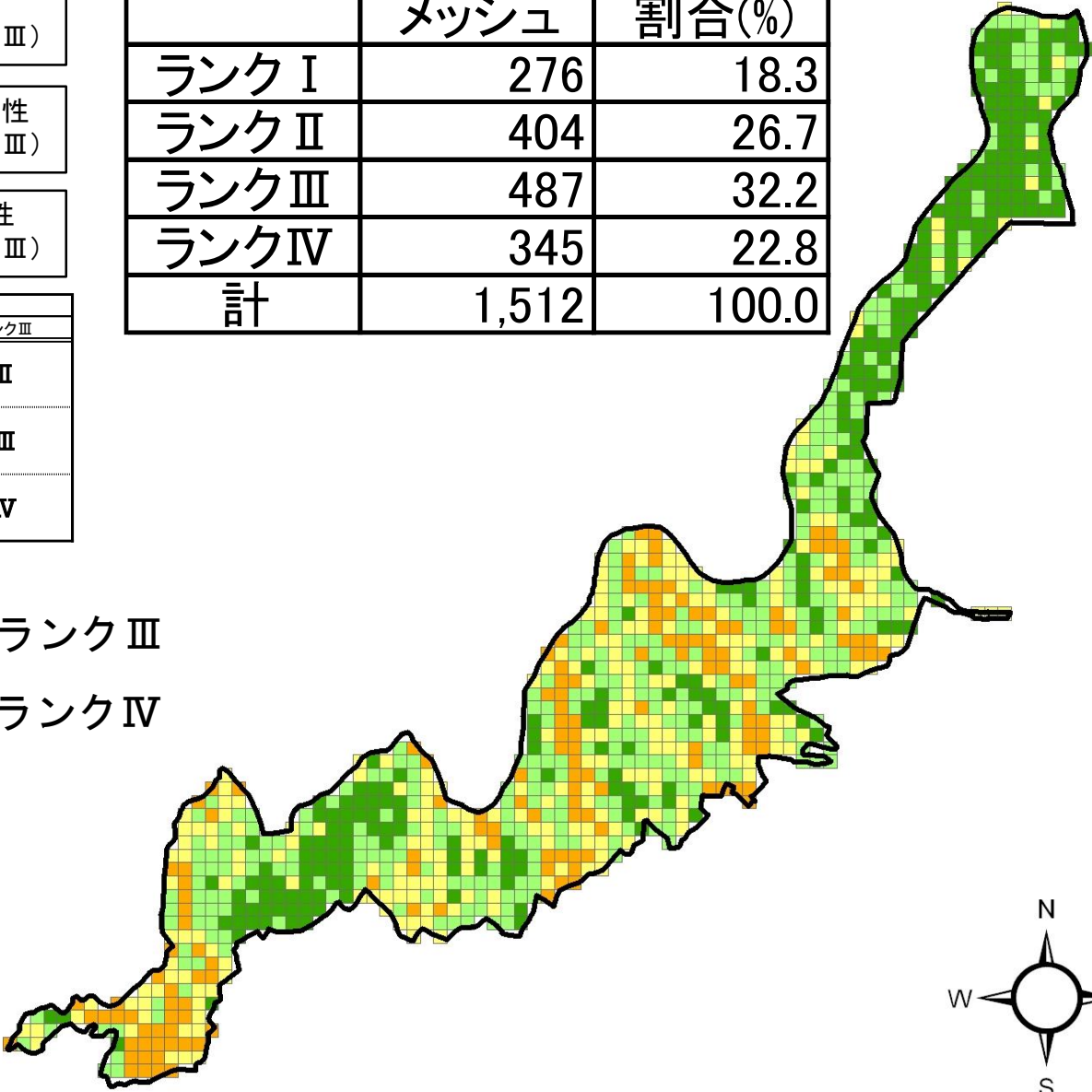
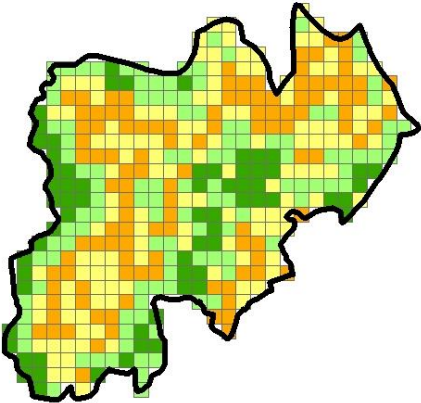
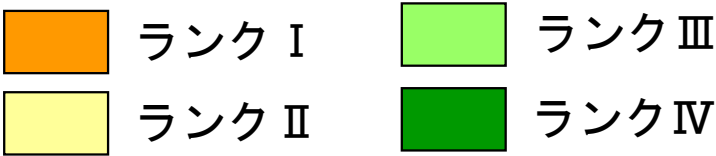
第3章 動的活動林：総合評価

動的活動林
ランク (Ⅰ～Ⅳ)

- 傾斜度
ランク (Ⅰ～Ⅲ)
- 植生の魅力性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)
- アクセス性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

		傾斜度×植生		
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
アクセス性	ランクⅠ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	276	18.3
ランクⅡ	404	26.7
ランクⅢ	487	32.2
ランクⅣ	345	22.8
計	1,512	100.0

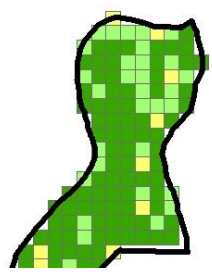


第3章 動的活動林:総合評価

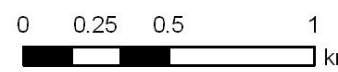
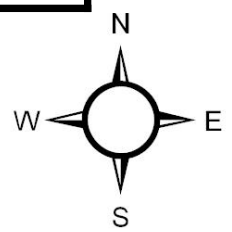
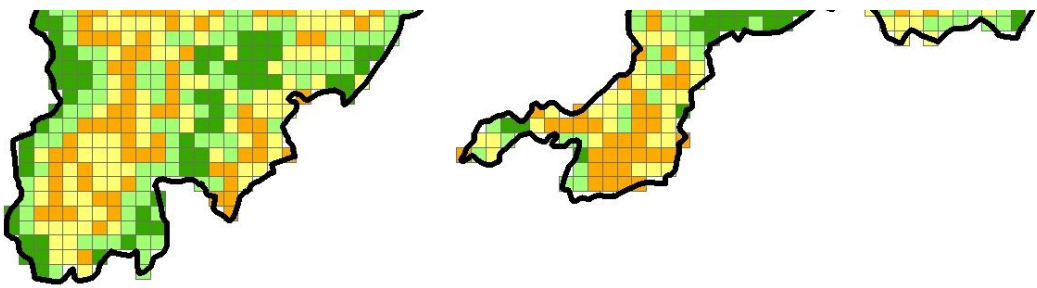
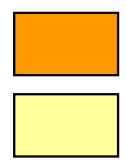
動的活動林
ランク (Ⅰ～Ⅳ)

- 傾斜度
ランク (Ⅰ～Ⅲ)
- 植生の魅力性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)
- アクセス性

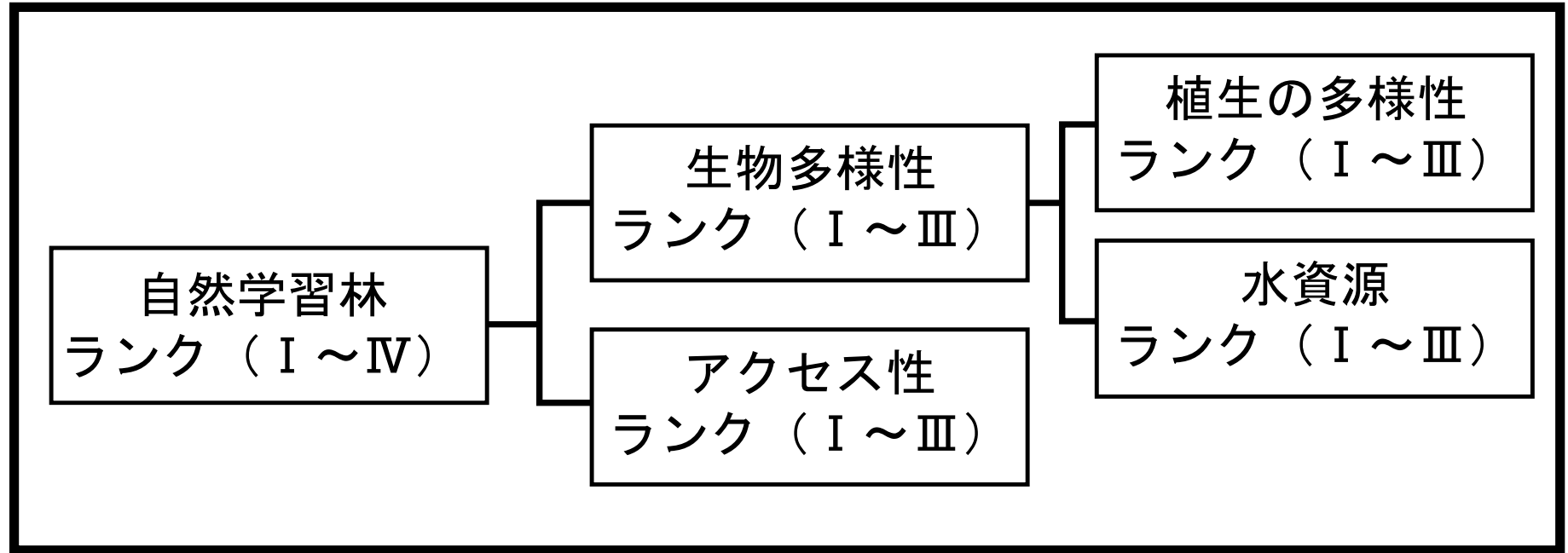
	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	276	18.3
ランクⅡ	404	26.7
ランクⅢ	487	32.2
ランクⅣ	245	16.0



		傾斜度×植生		
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
アクセス性	ランクⅠ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ



第3章 自然学習林：評価システム



第3章 自然学習林：評価システム

自然学習林

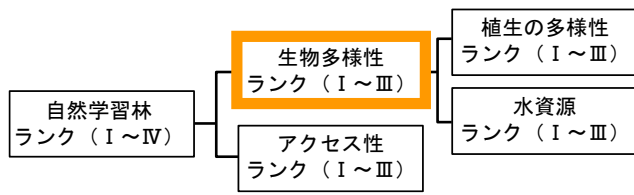
生物多様性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

植生の多様性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

資源

- ◇ランクⅠ：コナラ大径木林（コナラ林）、
落葉広葉樹二次林（ケヤキ林、ムクノキ林）
- ◇ランクⅡ：自然遷移林（コジイ自然林、
コジイ二次林・アラカシ林、アカマツ林）
- ◇ランクⅢ：スギ落葉樹混交林（スギ・ヒノキ植林）、
その他（竹林、園芸樹林植林・苗圃、アカメガシワ
・クマノミズキ林、マント群落、伐採跡地群落、
二次草原（半自然草原）・耕作地雑草群落、
芝生・ゴルフ場草地、人工構造物）

第3章 自然学習林：生物多様性



		植生の多様性		
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
水資源	ランクⅠ	I	I	Ⅱ
	ランクⅡ	I	Ⅱ	Ⅲ
	ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	296	19.6
ランクⅡ	657	43.5
ランクⅢ	559	37.0
計	1,512	100.0

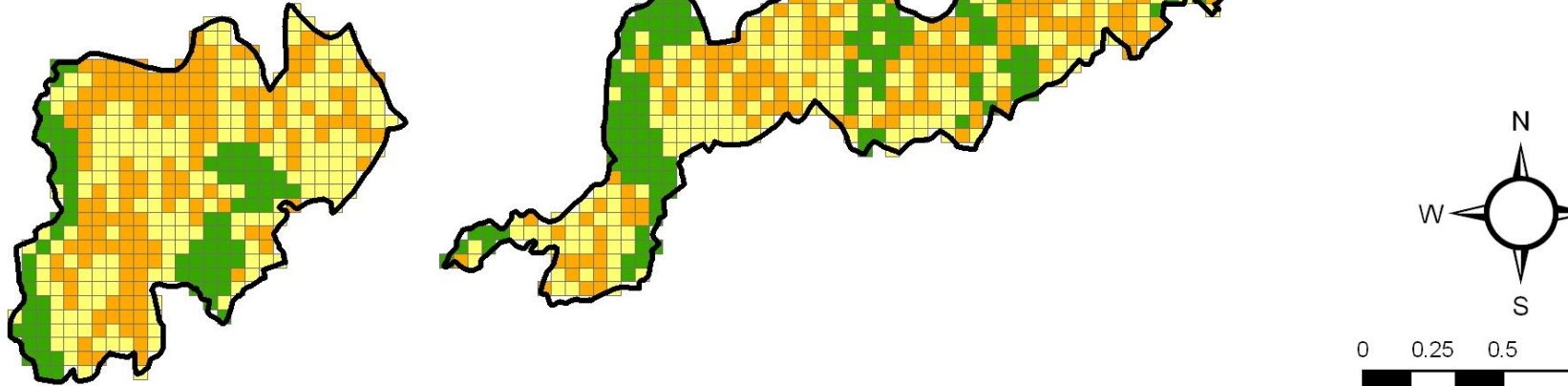
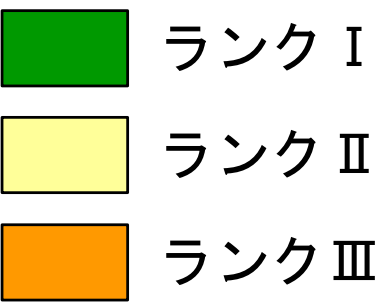
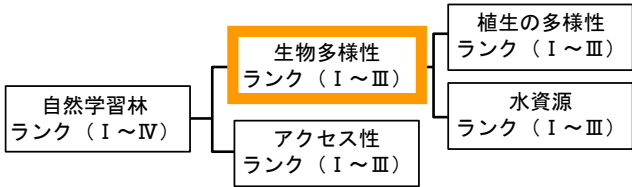
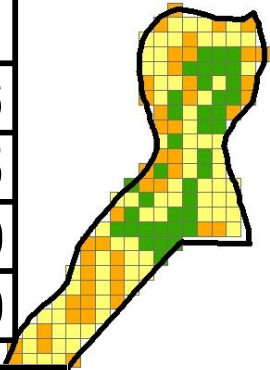


図3-17 生物多様性の評価とメッシュ数／割合

第3章 自然学習林: 生物多様性



	メッシュ	割合(%)
ランク I	296	19.6
ランク II	657	43.5
ランク III	559	37.0
計	1,512	100.0



		植生の多様性		
		ランク I	ランク II	ランク III
水資源	ランク I	I	I	II
	ランク II	I	II	III
	ランク III	II	III	III

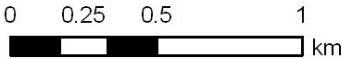
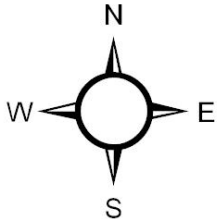
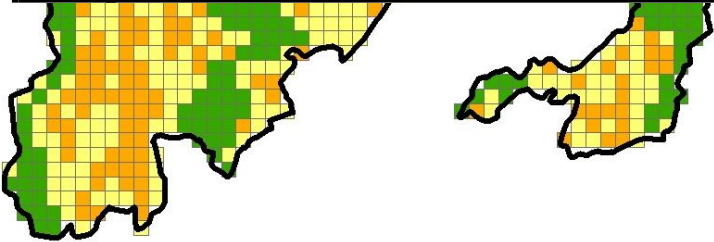
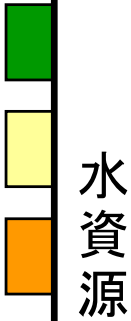
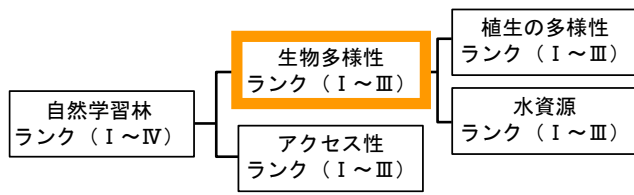


図3-17 生物多様性の評価とメッシュ数/割合

第3章 自然学習林: 生物多様性



		植生の多様性		
		ランク I	ランク II	ランク III
水資源	ランク I	I	I	II
	ランク II	I	II	III
	ランク III	II	III	III

	メッシュ	割合(%)
ランク I	296	19.6
ランク II	657	43.5
ランク III	559	37.0
計	1,512	100.0

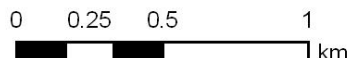
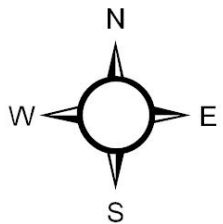
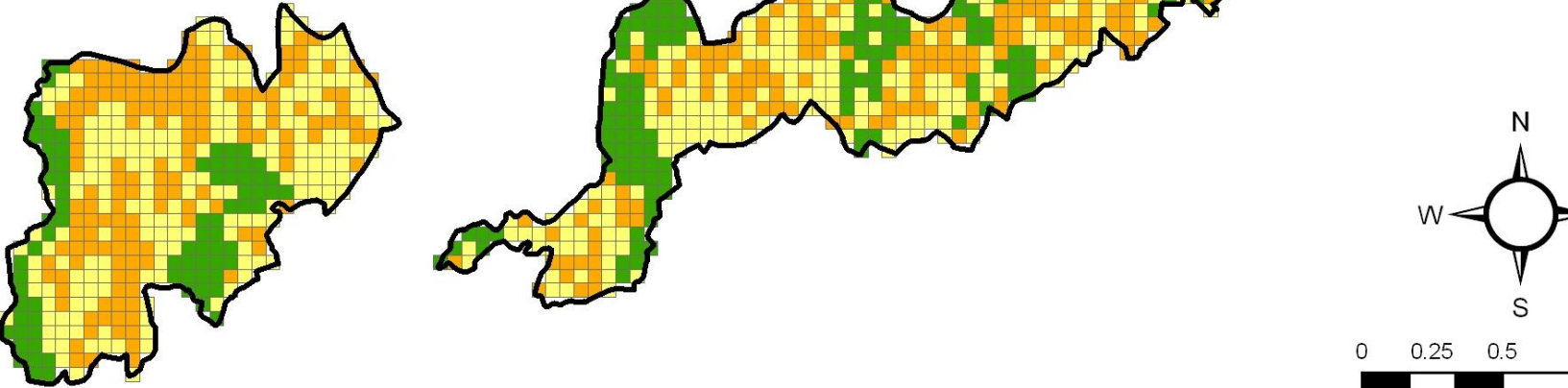
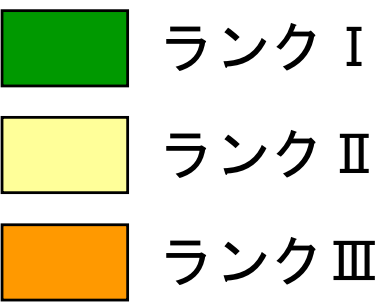


図 3-17 生物多様性の評価とメッシュ数／割合

第3章 自然学習林：総合評価

自然学習林
ランク (Ⅰ～Ⅳ)

生物多様性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

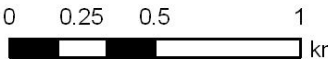
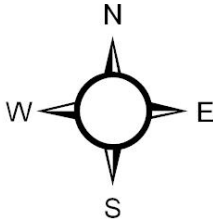
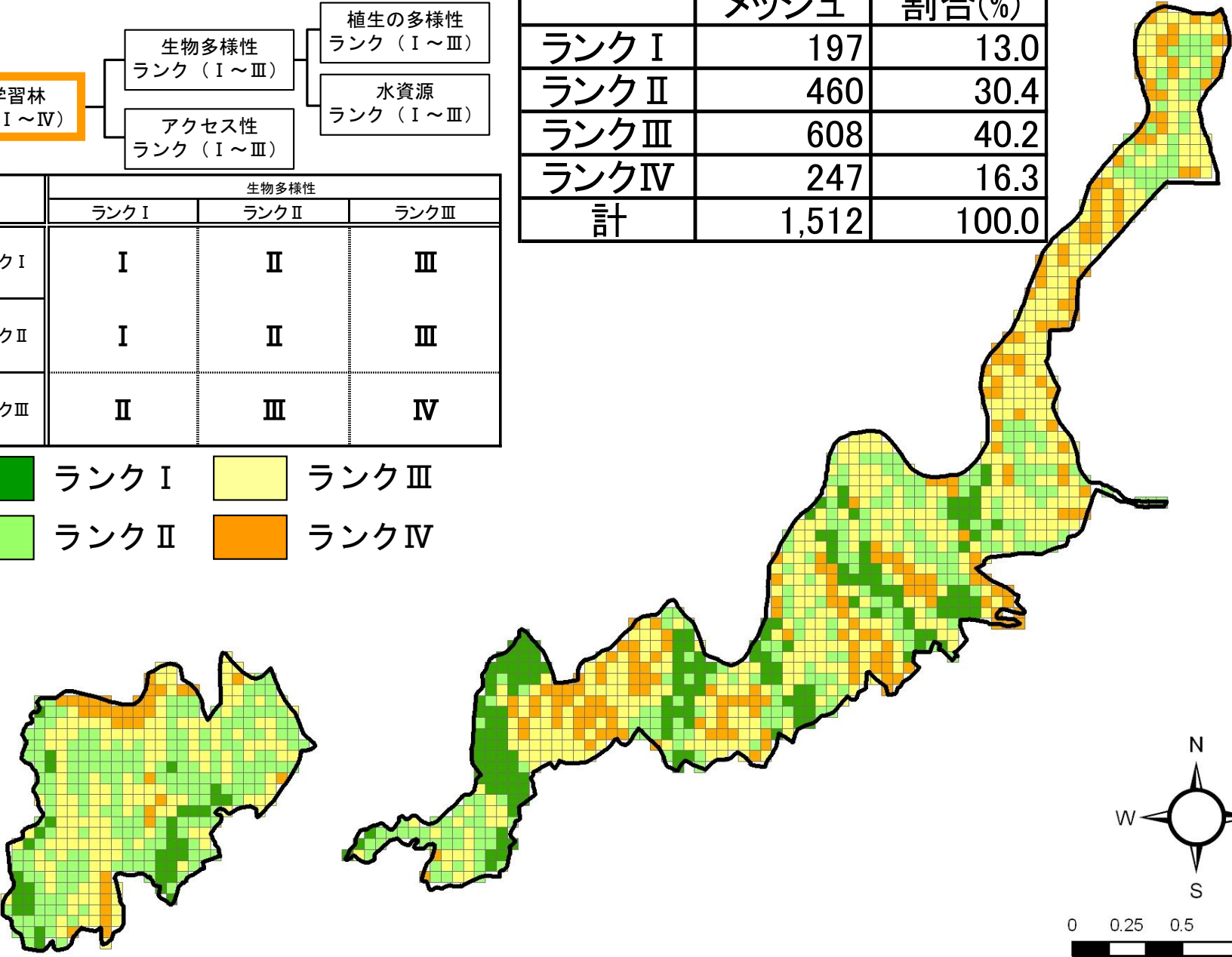
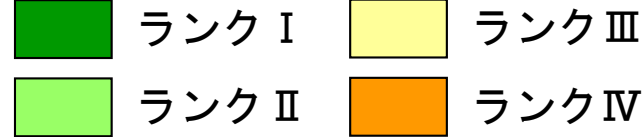
アクセス性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

植生の多様性
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

水資源
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	197	13.0
ランクⅡ	460	30.4
ランクⅢ	608	40.2
ランクⅣ	247	16.3
計	1,512	100.0

	生物多様性		
	ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
ランクⅠ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ



第3章 自然学習林：総合評価

自然学習林
ランク（Ⅰ～Ⅳ）

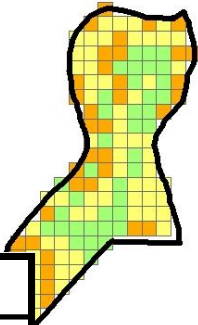
生物多様性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

アクセス性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

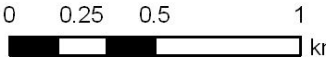
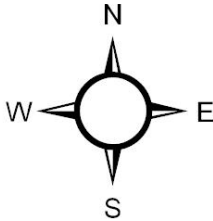
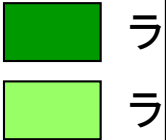
植生の多様性
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

水資源
ランク（Ⅰ～Ⅲ）

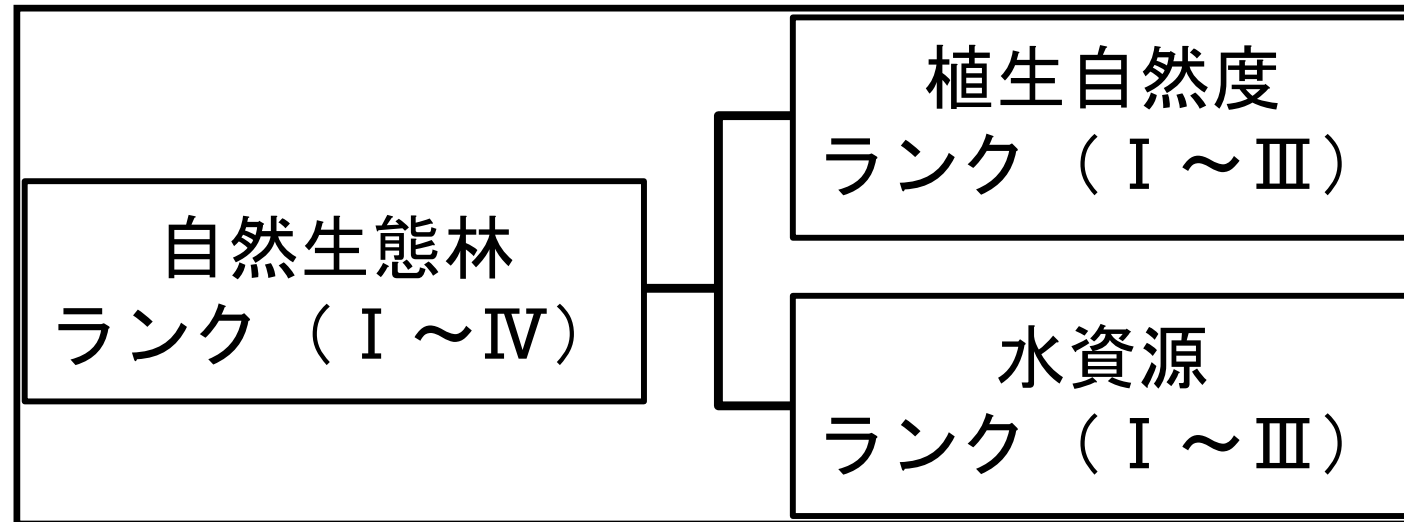
	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	197	13.0
ランクⅡ	460	30.4
ランクⅢ	608	40.2
ランクⅣ	247	16.3



	生物多様性		
	ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
ランクⅠ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ



第3章 自然生態林：評価システム



第3章 自然生態林：植生自然度

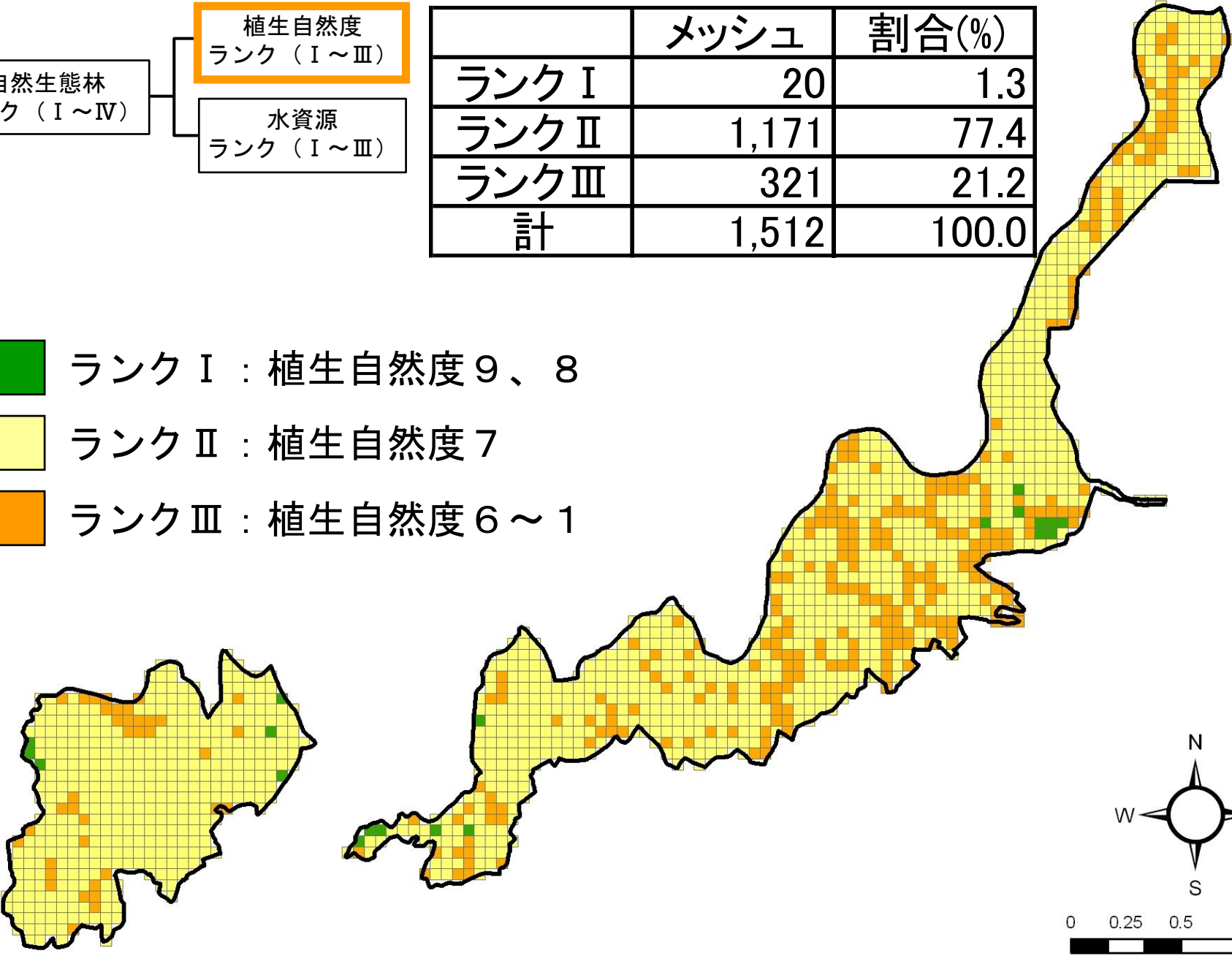
自然生態林
ランク (Ⅰ～Ⅳ)

植生自然度
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

水資源
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	20	1.3
ランクⅡ	1,171	77.4
ランクⅢ	321	21.2
計	1,512	100.0

- ランクⅠ：植生自然度 9、8
- ランクⅡ：植生自然度 7
- ランクⅢ：植生自然度 6～1



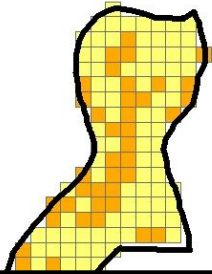
第3章 自然生態林：植生自然度

自然生態林
ランク (Ⅰ～Ⅳ)

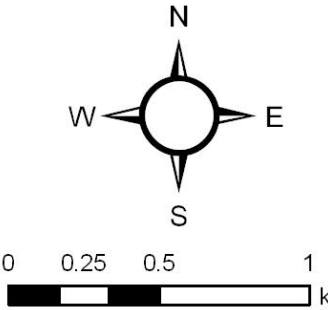
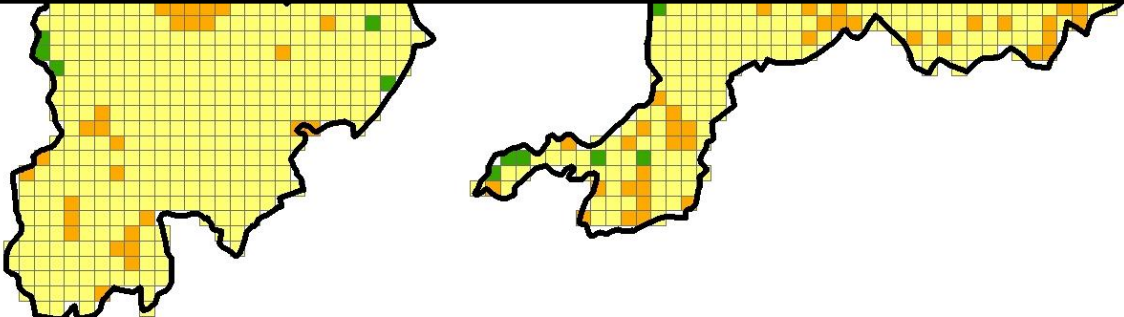
植生自然度
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

水資源
ランク (Ⅰ～Ⅲ)

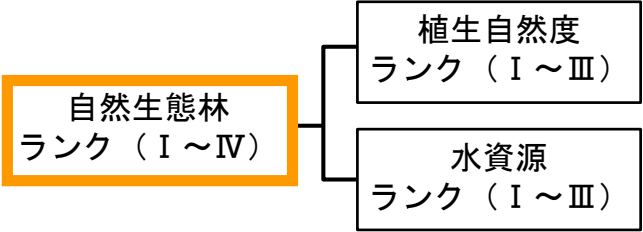
	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	20	1.3
ランクⅡ	1,171	77.4
ランクⅢ	321	21.2



- ランクⅠ：植生自然度 9 (コジイ自然林)
植生自然度 8 (コジイ二次林・アラカシ林)
- ランクⅡ：植生自然度 7 (ケヤキ林・ムクノキ林、コナラ林、アカマツ林、アカメガシワ林・クマノミズキ林)
- ランクⅢ：植生自然度 6～1 (スギ・ヒノキ植林、竹林、園芸樹林植林・苗圃、アカメガシワ・クマノミズキ林、マント群落、伐採跡地群落、二次草原 (半自然草原)・耕作地雑草群落、芝生・ゴルフ場草地、人工構造物)

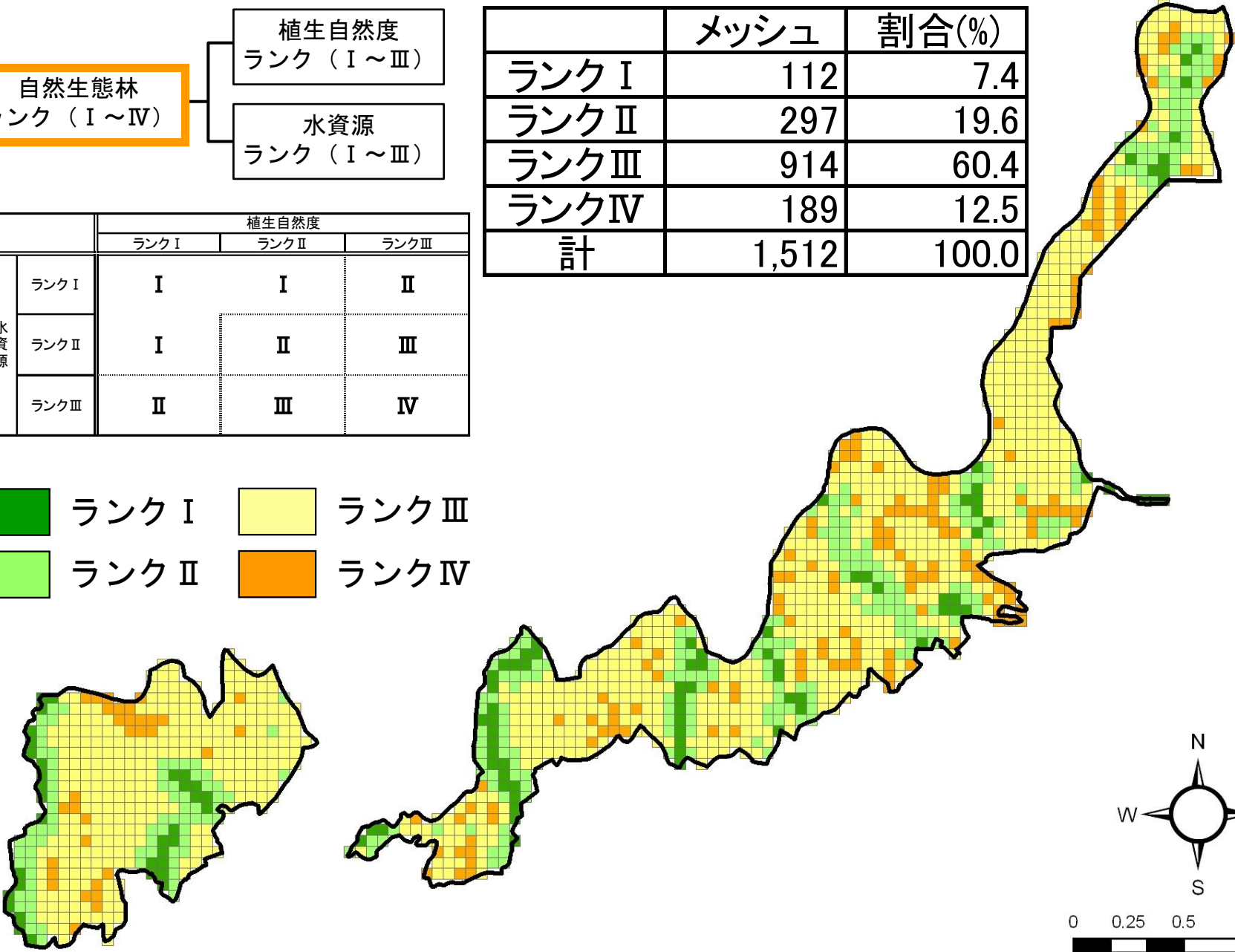
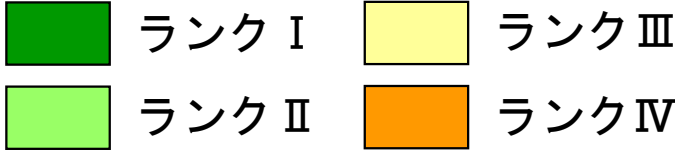


第3章 自然生態林：総合評価

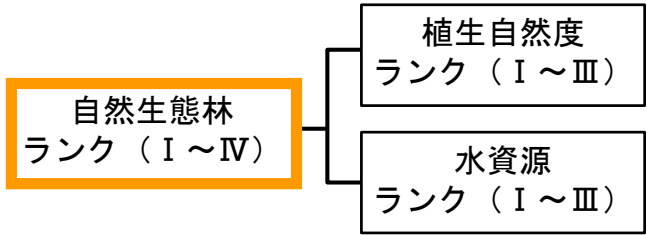


		植生自然度		
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
水資源	ランクⅠ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ

	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	112	7.4
ランクⅡ	297	19.6
ランクⅢ	914	60.4
ランクⅣ	189	12.5
計	1,512	100.0

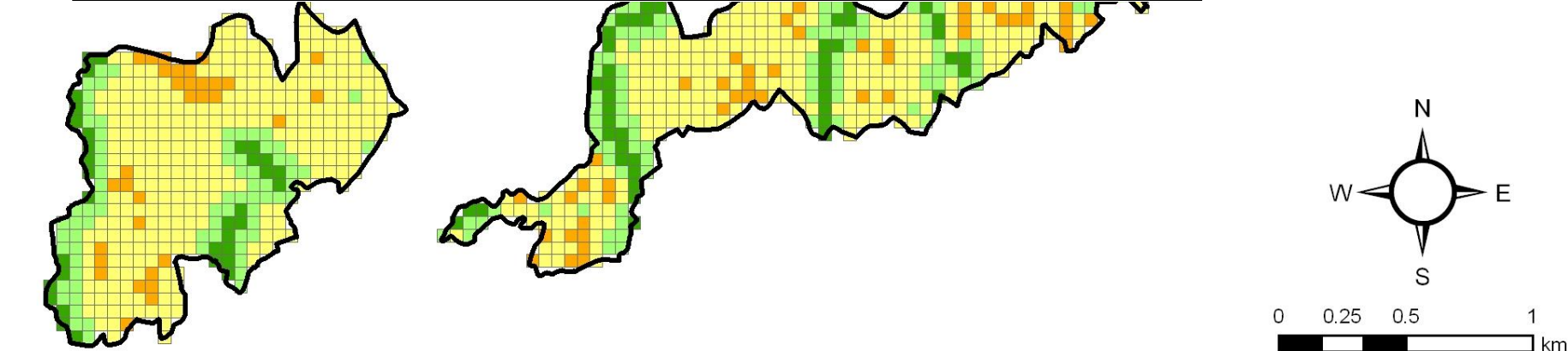


第3章 自然生態林：総合評価

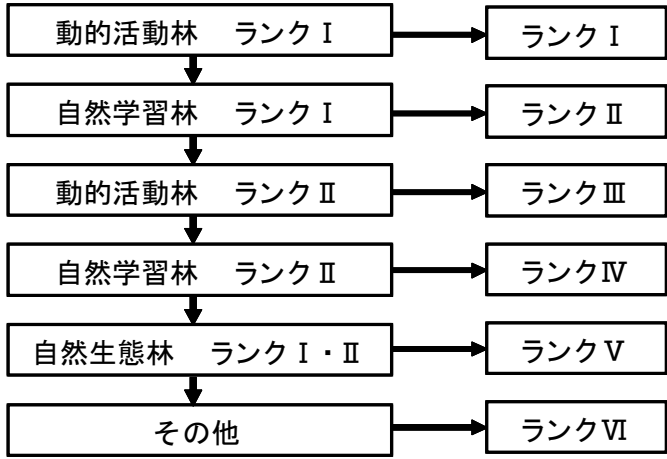


	メッシュ	割合(%)
ランクⅠ	112	7.4
ランクⅡ	297	19.6
ランクⅢ	914	60.4

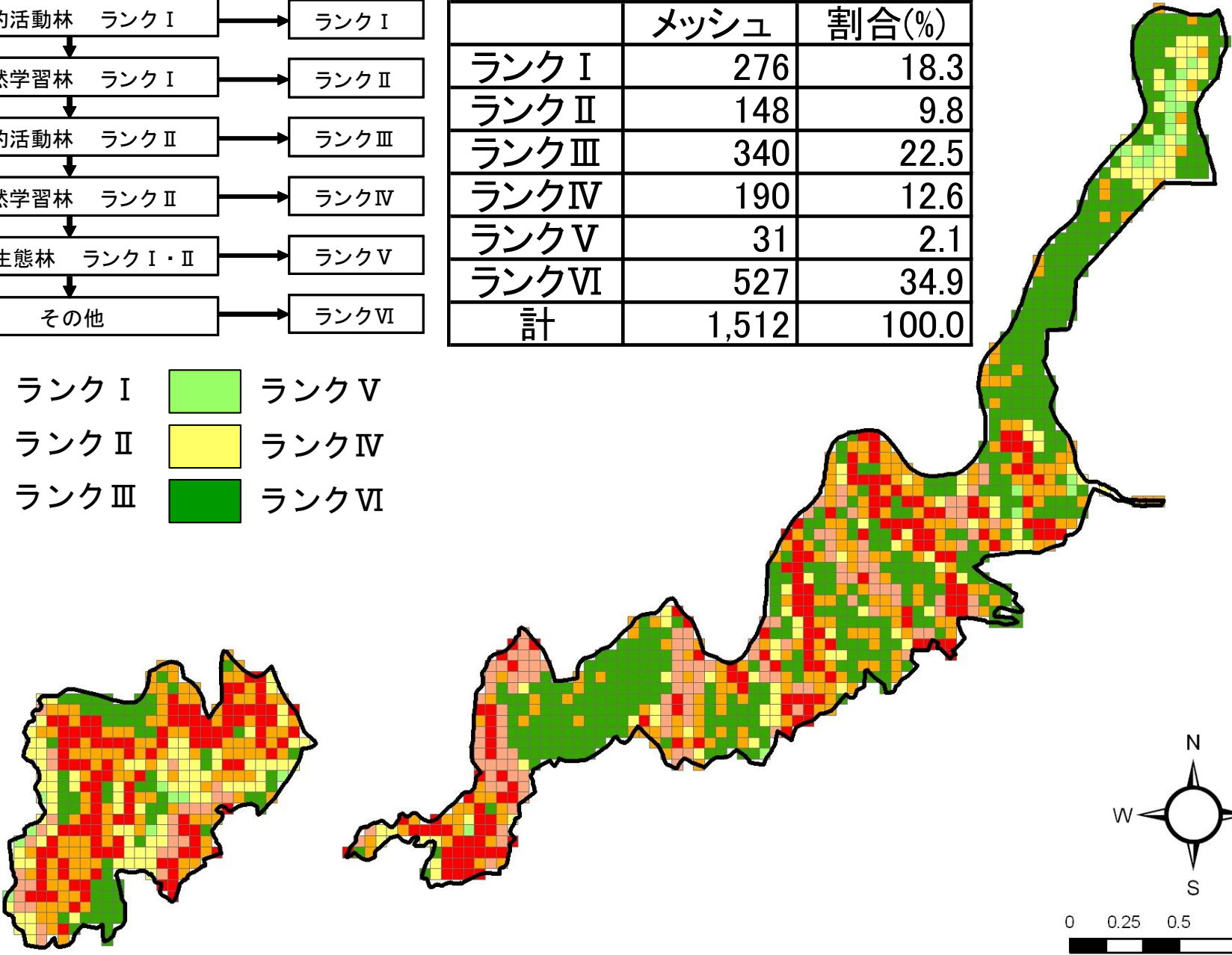
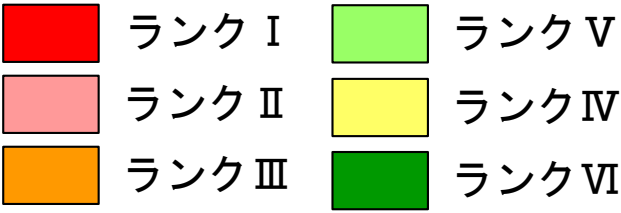
		植生自然度		
		ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ
水資源	ランクⅠ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	ランクⅡ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	ランクⅢ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ



第3章 活用の視点からの総合評価



	メッシュ	割合(%)
ランク I	276	18.3
ランク II	148	9.8
ランク III	340	22.5
ランク IV	190	12.6
ランク V	31	2.1
ランク VI	527	34.9
計	1,512	100.0



第3章 活用の視点からの評価の統合化

◇評価の統合化フロー

動的活動林 ランク I

ランク I

自然学習林 ランク I

ランク II

動的活動林 ランク II

ランク III

自然学習林 ランク II

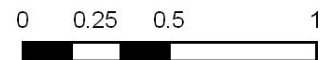
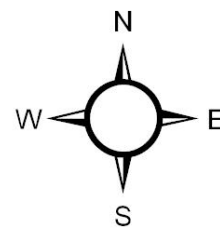
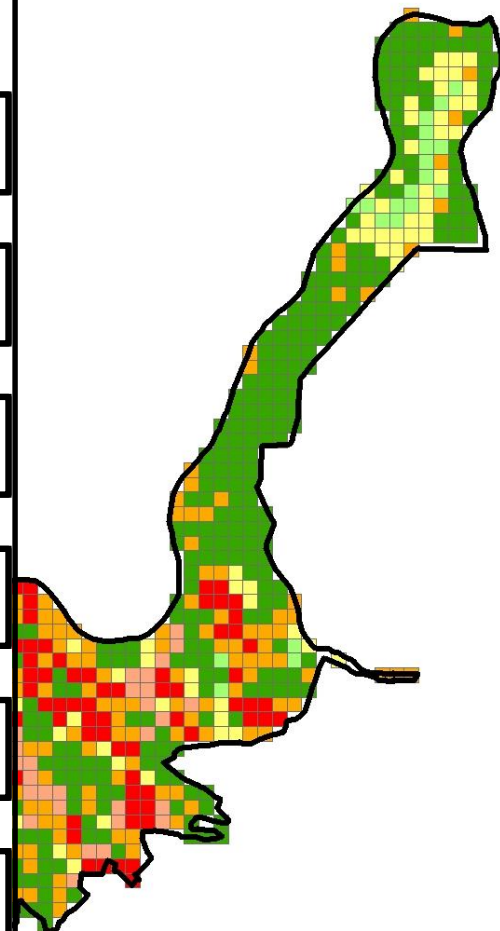
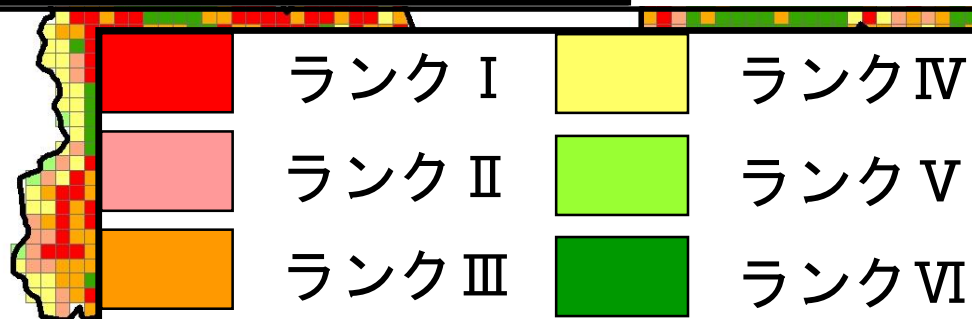
ランク IV

自然生態林 ランク I・II

ランク V

その他

ランク VI





第4章 山麓保全活動活性化の仕組みと 山麓部の活用ポテンシャル

- ◇ 多様な活動を誘発させ、持続的に展開させるためにプラットフォーム機能と資金循環機能の新たな仕組みが有効に作用しつつあることが明らかとなった
- ◇ 保全区域には、動的活動林や自然学習林としてポテンシャルの高いエリアがまだまだ存在
- ◇ さらなる市民ぐるみの山麓保全活動が求められる
- ◇ 今後、これらの活動を市民ぐるみの活動に発展させるためには、情報発信や資金の獲得など間接的関与型の活動を誘発させることが課題